

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料目次）

(資料 1)

「リクルート進学総研「マーケットレポート」 - 「18 歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」

(資料 2)

「小学校教員免許取得できる近隣大学の入試状況」

(資料 3)

「Press Release 「AIの将来への影響」 編」

(資料 4)

「九州女子大学令和5（2023）年度新設3学科 家政学部「生活デザイン学科（仮称）人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」 人間科学部「心理・文化学科（仮称）」 学生確保の見通し調査（設置構想についての高校生アンケート調査）報告書」

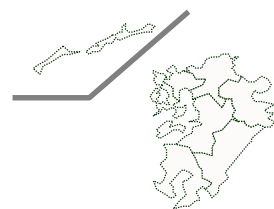
(資料 5)

「九州女子大学人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」 人材需要の見通し調査（設置構想についての人材需要アンケート調査）報告書」

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

九州沖縄版

- 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県 -



【将来予測 2020～2032年】

▶ 18歳人口予測 P2～P4

- ・ 2020年141,187人→2032年131,637人（9,550人減少）
- ・ 減少率が高いのは、佐賀県（2020年比較15.7%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、長崎県（2020年13,387人→2032年11,431人、1,956人減少）。

【経過推移 2011～2020年】

▶ 進学者数・進学率（現役）の推移 P5～P10

進学者数

- ・ 大学は、2011年52,145人→2020年51,973人（172人減少）と、0.3%減少。
- ・ 短期大学は、2011年8,048人→2020年6,127人（1,921人減少）と、23.9%減少。
- ・ 専門学校は、2011年24,991人→2020年23,856人（1,135人減少）と、4.5%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年38.4%→2020年41.3%（2.9ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年5.9%→2020年4.9%（1.0ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年18.4%→2020年18.9%（0.5ポイント上昇）

▶ 地元残留率の推移 P11～P13

- ・ 大学は、2011年46.6%→2020年46.5%（0.1ポイント低下）
- ・ 短期大学は、2011年73.0%→2020年76.4%（3.4ポイント上昇）

▶ 九州沖縄エリア概要(全体：県別) P14～P17

■分析・データについて

- 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口=3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数、義務教育学校卒業生数
 - ・ 中学校卒業生数=高校生+フリーター+就職者 全て含む
- 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。（年=年度）
- 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- 卒業生数とは、高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- 進学者数とは、高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- 進学率(現役)とは、進学者数(大学・短期大学・専修学校専門課程(専門学校))÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)で算出した。
- 残留率とは、自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)
- 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

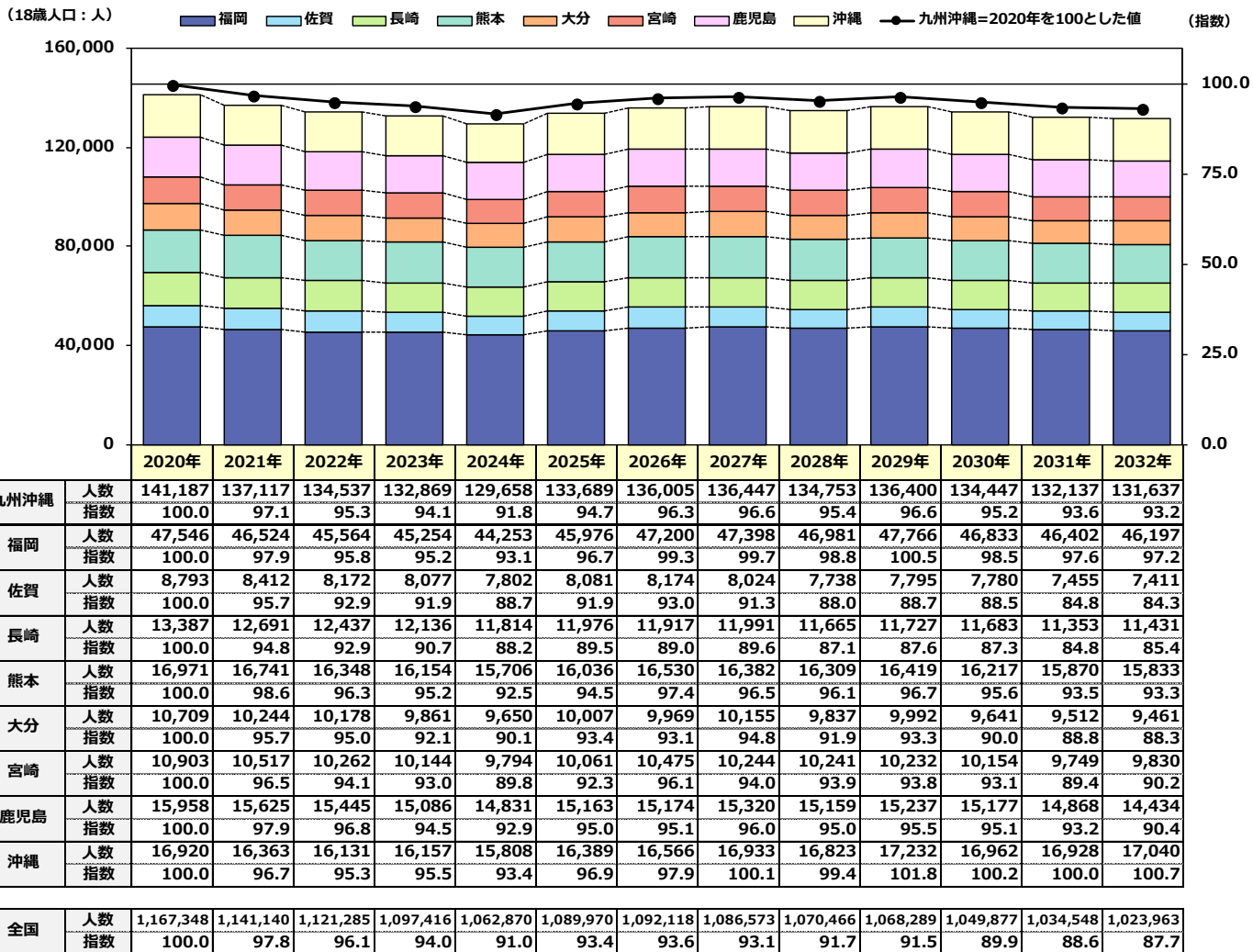
※専門学校=専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<http://souken.shingakunet.com/>

18歳人口予測（全体：九州沖縄：2020～2032年）

■ 2020年141,187人→2032年131,637人（9,550人減少）

- 九州沖縄エリアは12年間で9,550人・6.8%減少し、全国の減少率12.3%を5.5ポイント下回る。
- 2024年までに129,658人まで減少し、2027年にかけて6,789人増加した後、2032年までに再び4,810人減少。
- 減少率が高いのは、佐賀県（2020年比較15.7%減少）。
- 減少数が多いのは、長崎県（2020年13,387人→2032年11,431人、1,956人減少）。

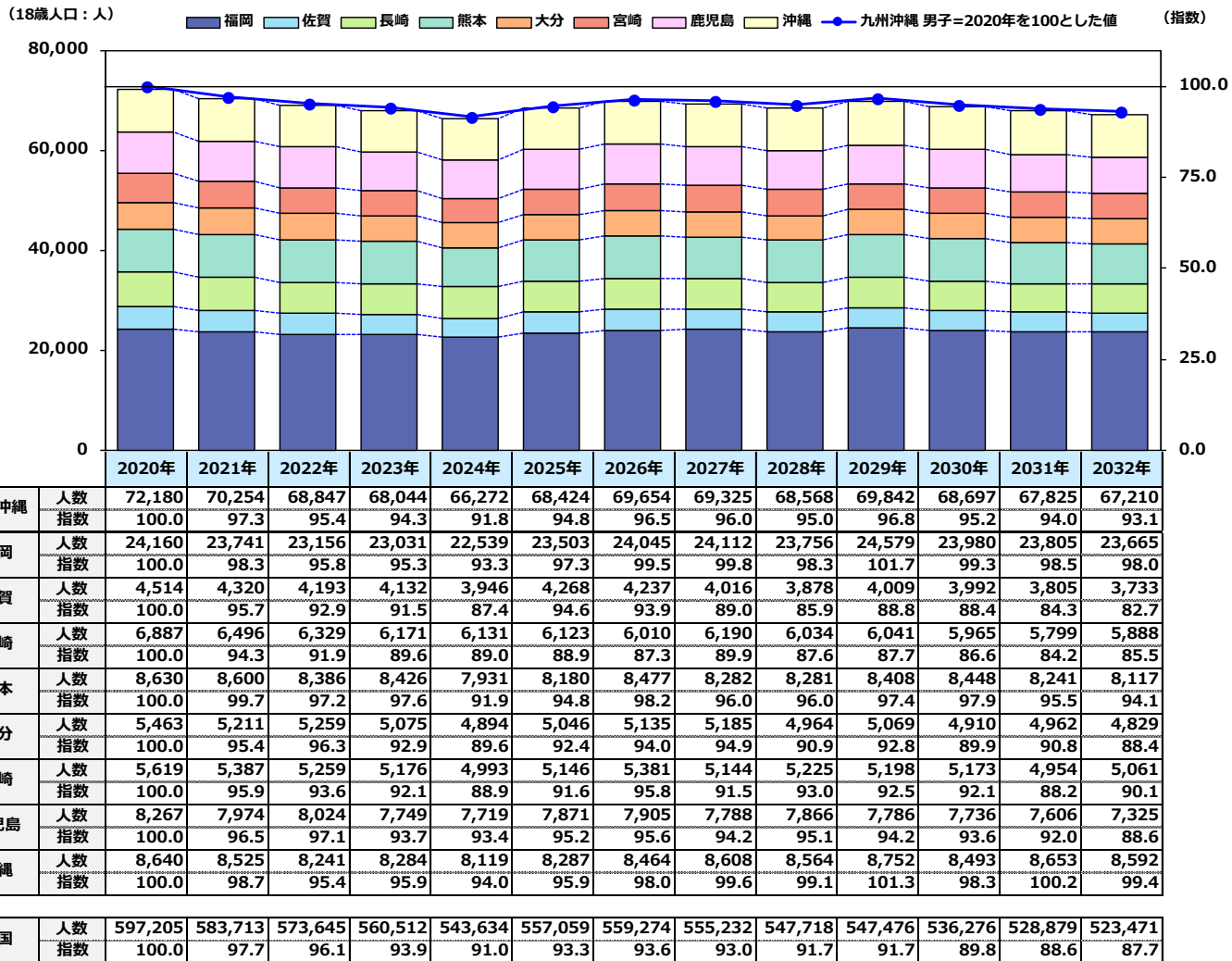


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：九州沖縄：2020～2032年）

■ 2020年72,180人→2032年67,210人（4,970人減少）

- ・ 男子は12年間で4,970人・6.9%減少し、全国の減少率12.3%を5.4ポイント下回る。
- ・ 2024年に66,272人まで減少し、2026年にかけて3,382人増加した後、再び2029年微増し、その後は減少してる。
- ・ 減少率が高いのは、佐賀県（2020年比較17.3%減少）、次いで長崎県（2020年比較14.5%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、長崎県（2020年6,887人→2032年5,888人、999人減少）。



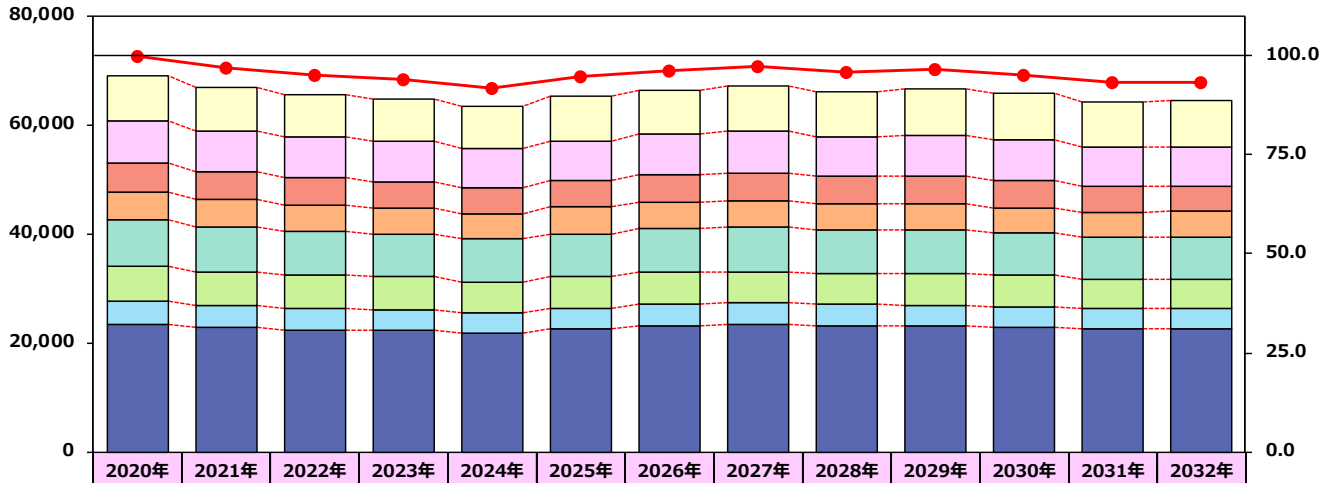
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：九州沖縄：2020～2032年）

■ 2020年69,007人→2032年64,427人（4,580人減少）

- ・女子は12年間で4,580人・6.6%減少し、全国の減少率12.2%を5.6ポイント下回る。
- ・2024年に63,386人まで減少するが、2027年に向け3,736人増加。その後は減少推移。
- ・減少率が高いのは、長崎県（2020年比較14.7%減少）。次いで、佐賀県（2020年比較14.0%減少）。
- ・減少数が多いのも、長崎県（2020年6,500人→2032年5,543人、957人減少）。

（18歳人口：人） 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄 九州沖縄女子=2020年を100とした値（指数）



		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
九州沖縄	人数	69,007	66,863	65,690	64,825	63,386	65,265	66,351	67,122	66,185	66,558	65,750	64,312	64,427
	指数	100.0	96.9	95.2	93.9	91.9	94.6	96.2	97.3	95.9	96.5	95.3	93.2	93.4
福岡	人数	23,386	22,783	22,408	22,223	21,714	22,473	23,155	23,286	23,225	23,187	22,853	22,597	22,532
	指数	100.0	97.4	95.8	95.0	92.9	96.1	99.0	99.6	99.3	99.1	97.7	96.6	96.3
佐賀	人数	4,279	4,092	3,979	3,945	3,856	3,813	3,937	4,008	3,860	3,786	3,788	3,650	3,678
	指数	100.0	95.6	93.0	92.2	90.1	89.1	92.0	93.7	90.2	88.5	88.5	85.3	86.0
長崎	人数	6,500	6,195	6,108	5,965	5,683	5,853	5,907	5,801	5,631	5,686	5,718	5,554	5,543
	指数	100.0	95.3	94.0	91.8	87.4	90.0	90.9	89.2	86.6	87.5	88.0	85.4	85.3
熊本	人数	8,341	8,141	7,962	7,728	7,775	7,856	8,053	8,100	8,028	8,011	7,769	7,629	7,716
	指数	100.0	97.6	95.5	92.7	93.2	94.2	96.5	97.1	96.2	96.0	93.1	91.5	92.5
大分	人数	5,246	5,033	4,919	4,786	4,756	4,961	4,834	4,970	4,873	4,923	4,731	4,550	4,632
	指数	100.0	95.9	93.8	91.2	90.7	94.6	92.1	94.7	92.9	93.8	90.2	86.7	88.3
宮崎	人数	5,284	5,130	5,003	4,968	4,801	4,915	5,094	5,100	5,016	5,034	4,981	4,795	4,769
	指数	100.0	97.1	94.7	94.0	90.9	93.0	96.4	96.5	94.9	95.3	94.3	90.7	90.3
鹿児島	人数	7,691	7,651	7,421	7,337	7,112	7,292	7,269	7,532	7,293	7,451	7,441	7,262	7,109
	指数	100.0	99.5	96.5	95.4	92.5	94.8	94.5	97.9	94.8	96.9	96.7	94.4	92.4
沖縄	人数	8,280	7,838	7,890	7,873	7,689	8,102	8,102	8,325	8,259	8,480	8,469	8,275	8,448
	指数	100.0	94.7	95.3	95.1	92.9	97.9	97.9	100.5	99.7	102.4	102.3	99.9	102.0
全国	人数	570,143	557,427	547,640	536,904	519,236	532,911	532,844	531,341	522,748	520,813	513,601	505,669	500,492
	指数	100.0	97.8	96.1	94.2	91.1	93.5	93.5	93.2	91.7	91.3	90.1	88.7	87.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：九州沖縄：2011～2020年）

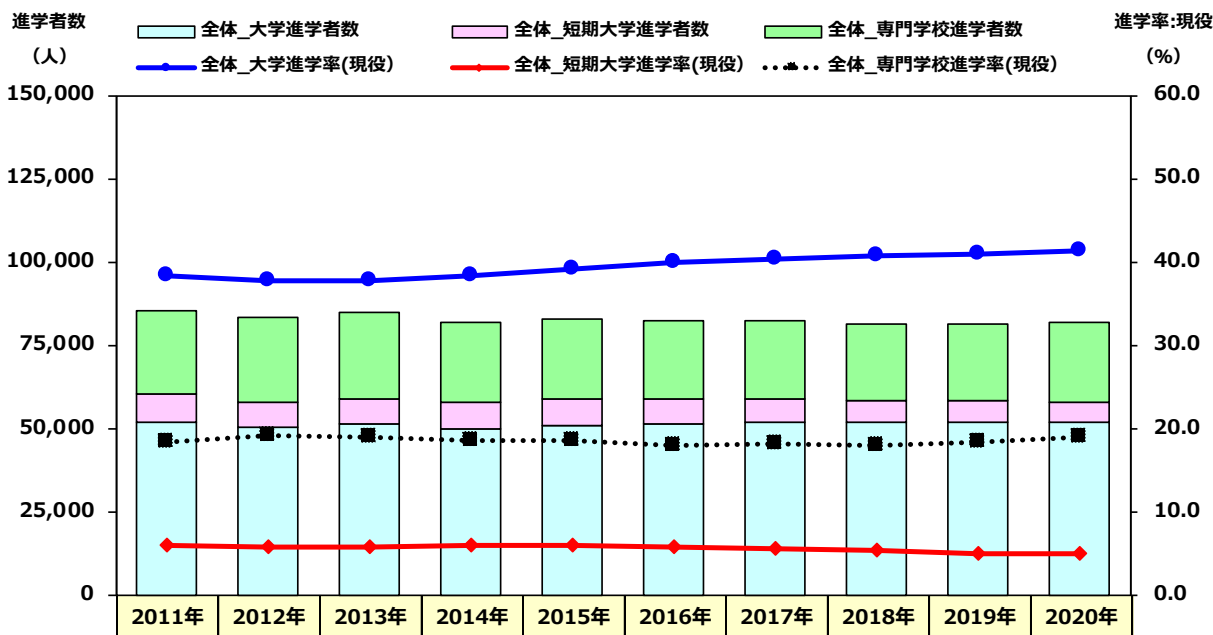
■ 10年で大学進学率が2.9ポイント上昇、大学進学者では172人減少、短期大学進学者で1,921人減少。

進学者数

- ・ 大学は、2011年52,145人→2020年51,973人（172人減少）と、0.3%減少。
- ・ 短期大学は、2011年8,048人→2020年6,127人（1,921人減少）と、23.9%減少。
- ・ 専門学校は、2011年24,991人→2020年23,856人（1,135人減少）と、4.5%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年38.4%→2020年41.3%（2.9ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年5.9%→2020年4.9%（1.0ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年18.4%→2020年18.9%（0.5ポイント上昇）



九州 沖縄	卒業生数		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
				135,785	133,308	135,923	130,284	130,536	129,144	129,078	127,067	127,129
進学者数	大学		52,145	50,384	51,275	49,940	51,063	51,482	51,976	51,729	51,933	51,973
	短期大学		8,048	7,718	7,869	7,728	7,696	7,419	7,068	6,673	6,320	6,127
	専門学校		24,991	25,524	25,691	24,157	24,248	23,246	23,487	22,899	23,340	23,856
進学率 (現役)	大学		38.4	37.8	37.7	38.3	39.1	39.9	40.3	40.7	40.9	41.3
	短期大学		5.9	5.8	5.8	5.9	5.9	5.7	5.5	5.3	5.0	4.9
	専門学校		18.4	19.1	18.9	18.5	18.6	18.0	18.2	18.0	18.4	18.9

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
福岡	卒業生数		42,241	41,632	42,908	41,758	42,095	42,094	42,535	41,698	41,981	41,909
	進学者数	大学	19,382	18,791	19,141	19,082	19,668	19,900	20,256	19,669	20,042	19,988
		短期大学	2,707	2,605	2,613	2,636	2,611	2,492	2,309	2,159	2,077	2,070
		専門学校	6,524	6,805	6,802	6,538	6,405	6,165	6,905	7,049	7,114	7,407
	進学率 (現役)	大学	45.9	45.1	44.6	45.7	46.7	47.3	47.6	47.2	47.7	47.7
		短期大学	6.4	6.3	6.1	6.3	6.2	5.9	5.4	5.2	4.9	4.9
専門学校		15.4	16.3	15.9	15.7	15.2	14.6	16.2	16.9	16.9	17.7	
佐賀	卒業生数		8,732	8,423	8,519	8,281	8,239	8,254	8,106	8,051	8,079	7,976
	進学者数	大学	3,149	2,924	2,995	2,960	3,064	3,051	3,063	3,149	3,132	3,054
		短期大学	465	481	485	442	435	431	426	366	364	349
		専門学校	1,418	1,477	1,515	1,446	1,446	1,388	1,225	1,249	1,344	1,310
	進学率 (現役)	大学	36.1	34.7	35.2	35.7	37.2	37.0	37.8	39.1	38.8	38.3
		短期大学	5.3	5.7	5.7	5.3	5.3	5.2	5.3	4.5	4.5	4.4
専門学校		16.2	17.5	17.8	17.5	17.6	16.8	15.1	15.5	16.6	16.4	
長崎	卒業生数		14,577	14,040	14,081	13,182	12,924	12,915	12,977	12,740	12,289	12,161
	進学者数	大学	5,377	5,191	5,121	4,923	4,560	4,938	4,893	5,031	4,905	5,005
		短期大学	652	667	634	652	620	666	625	559	521	515
		専門学校	2,501	2,381	2,526	2,310	2,526	2,095	2,235	2,034	2,056	2,136
	進学率 (現役)	大学	36.9	37.0	36.4	37.3	35.3	38.2	37.7	39.5	39.9	41.2
		短期大学	4.5	4.8	4.5	4.9	4.8	5.2	4.8	4.4	4.2	4.2
専門学校		17.2	17.0	17.9	17.5	19.5	16.2	17.2	16.0	16.7	17.6	
熊本	卒業生数		16,635	16,293	16,640	15,968	15,911	15,719	15,622	15,405	15,532	14,931
	進学者数	大学	6,275	6,104	6,248	6,197	6,324	6,355	6,461	6,383	6,463	6,141
		短期大学	696	701	666	728	651	593	573	547	505	512
		専門学校	3,362	3,318	3,181	2,990	2,877	2,922	2,769	2,656	2,851	2,678
	進学率 (現役)	大学	37.7	37.5	37.5	38.8	39.7	40.4	41.4	41.4	41.6	41.1
		短期大学	4.2	4.3	4.0	4.6	4.1	3.8	3.7	3.6	3.3	3.4
専門学校		20.2	20.4	19.1	18.7	18.1	18.6	17.7	17.2	18.4	17.9	
大分	卒業生数		10,662	10,621	11,001	10,419	10,517	10,343	10,102	10,083	9,973	9,962
	進学者数	大学	3,982	3,822	3,896	3,626	3,781	3,730	3,663	3,805	3,719	3,859
		短期大学	912	824	901	882	913	859	835	773	721	749
		専門学校	2,128	2,150	2,308	2,196	2,211	2,118	2,066	1,957	1,864	1,921
	進学率 (現役)	大学	37.3	36.0	35.4	34.8	36.0	36.1	36.3	37.7	37.3	38.7
		短期大学	8.6	7.8	8.2	8.5	8.7	8.3	8.3	7.7	7.2	7.5
専門学校		20.0	20.2	21.0	21.1	21.0	20.5	20.5	19.4	18.7	19.3	
宮崎	卒業生数		10,916	10,807	11,357	10,653	10,752	10,657	10,364	10,028	10,160	10,080
	進学者数	大学	3,885	3,834	3,903	3,768	3,788	3,977	3,826	3,805	3,780	3,800
		短期大学	640	601	694	639	662	568	598	564	538	493
		専門学校	1,859	1,971	1,981	1,782	1,794	1,826	1,656	1,639	1,767	1,791
	進学率 (現役)	大学	35.6	35.5	34.4	35.4	35.2	37.3	36.9	37.9	37.2	37.7
		短期大学	5.9	5.6	6.1	6.0	6.2	5.3	5.8	5.6	5.3	4.9
専門学校		17.0	18.2	17.4	16.7	16.7	17.1	16.0	16.3	17.4	17.8	
鹿児島	卒業生数		17,007	16,321	16,447	15,374	15,214	14,928	14,765	14,489	14,607	14,427
	進学者数	大学	5,195	4,803	4,815	4,428	4,585	4,562	4,637	4,689	4,693	4,717
		短期大学	1,392	1,301	1,346	1,220	1,201	1,229	1,138	1,146	1,075	970
		専門学校	3,455	3,519	3,425	3,182	3,037	2,933	2,973	2,739	2,846	2,871
	進学率 (現役)	大学	30.5	29.4	29.3	28.8	30.1	30.6	31.4	32.4	32.1	32.7
		短期大学	8.2	8.0	8.2	7.9	7.9	8.2	7.7	7.9	7.4	6.7
専門学校		20.3	21.6	20.8	20.7	20.0	19.6	20.1	18.9	19.5	19.9	
沖縄	卒業生数		15,015	15,171	14,970	14,649	14,884	14,234	14,607	14,573	14,508	14,509
	進学者数	大学	4,900	4,915	5,156	4,956	5,293	4,969	5,177	5,198	5,199	5,409
		短期大学	584	538	530	529	603	581	564	559	519	469
		専門学校	3,744	3,903	3,953	3,713	3,952	3,799	3,658	3,576	3,498	3,742
	進学率 (現役)	大学	32.6	32.4	34.4	33.8	35.6	34.9	35.4	35.7	35.8	37.3
		短期大学	3.9	3.5	3.5	3.6	4.1	4.1	3.9	3.8	3.6	3.2
専門学校		24.9	25.7	26.4	25.3	26.6	26.7	25.0	24.5	24.1	25.8	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：九州沖縄：2011～2020年）

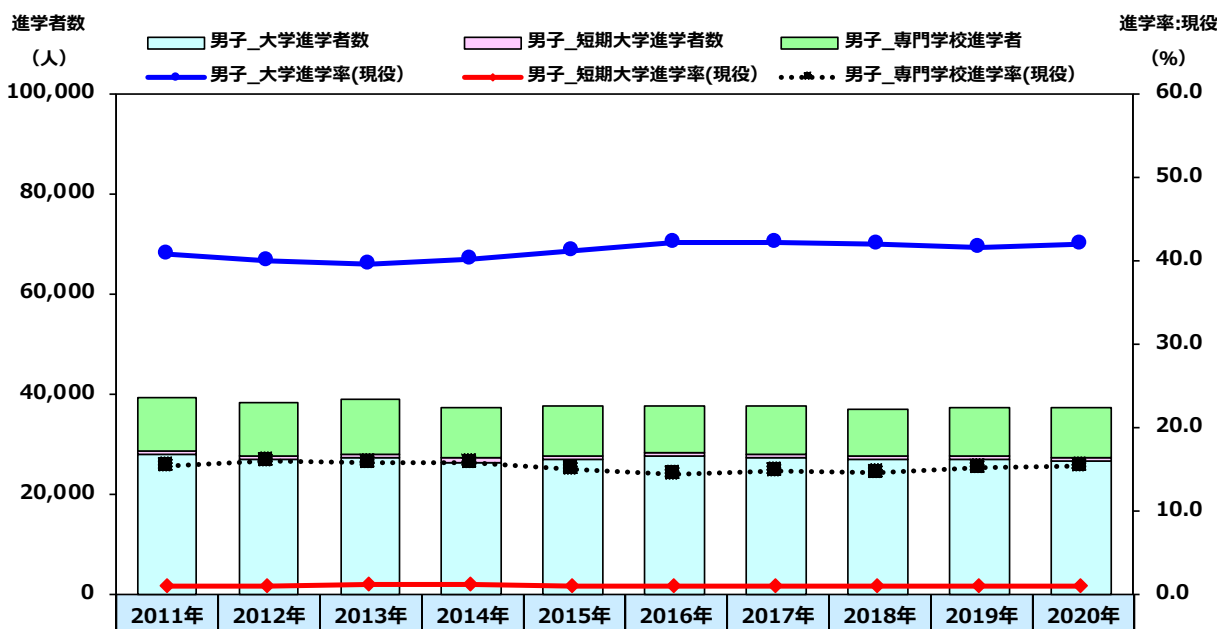
■ 男子では、大学進学率が1.2ポイント上昇し、進学者では1,358人減少

進学者数

- ・ 大学は、2011年28,008人→2020年26,650人（1,358人減少）と、4.8%減少。
- ・ 短期大学は、2011年698人→2020年640人（58人減少）と、8.3%減少。
- ・ 専門学校は、2011年10,591人→2020年9,816人（775人減少）と、7.3%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年40.7%→2020年41.9%（1.2ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年1.0%→2020年1.0%（変化なし）
- ・ 専門学校は、2011年15.4%→2020年15.4%（変化なし）



九州 沖縄	卒業生数		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	進学者数	大学	28,008	26,851	27,155	26,324	27,002	27,384	27,356	26,963	26,887	26,650
		短期大学	698	662	725	725	670	679	641	594	616	640
専門学校		10,591	10,678	10,874	10,305	9,866	9,330	9,516	9,401	9,769	9,816	
進学率 (現役)	大学	40.7	40.0	39.6	40.2	41.1	42.1	42.2	42.0	41.6	41.9	
	短期大学	1.0	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0	1.0	
	専門学校	15.4	15.9	15.8	15.7	15.0	14.3	14.7	14.6	15.1	15.4	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：県別：2011～2020年）

			2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
福岡	卒業生数		21,248	20,727	21,499	20,819	20,971	21,114	21,222	20,992	21,332	20,917
	進学者数	大学	10,329	10,018	10,139	9,979	10,368	10,478	10,609	10,142	10,257	10,095
		短期大学	254	222	271	283	283	260	268	226	262	269
		専門学校	2,830	2,904	2,874	2,822	2,609	2,535	2,794	2,974	3,078	3,072
	進学率 (現役)	大学	48.6	48.3	47.2	47.9	49.4	49.6	50.0	48.3	48.1	48.3
		短期大学	1.2	1.1	1.3	1.4	1.3	1.2	1.3	1.1	1.2	1.3
専門学校		13.3	14.0	13.4	13.6	12.4	12.0	13.2	14.2	14.4	14.7	
佐賀	卒業生数		4,581	4,374	4,362	4,247	4,166	4,255	4,153	4,181	4,271	4,111
	進学者数	大学	1,742	1,555	1,583	1,594	1,594	1,644	1,625	1,684	1,660	1,635
		短期大学	39	45	38	33	30	36	27	30	27	21
		専門学校	546	601	594	566	542	540	450	492	537	481
	進学率 (現役)	大学	38.0	35.6	36.3	37.5	38.3	38.6	39.1	40.3	38.9	39.8
		短期大学	0.9	1.0	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.7	0.6	0.5
専門学校		11.9	13.7	13.6	13.3	13.0	12.7	10.8	11.8	12.6	11.7	
長崎	卒業生数		7,413	7,093	7,101	6,639	6,480	6,543	6,602	6,454	6,255	6,229
	進学者数	大学	2,827	2,706	2,628	2,530	2,340	2,602	2,505	2,564	2,440	2,543
		短期大学	54	48	42	47	41	42	38	43	35	41
		専門学校	888	890	937	903	914	750	813	759	794	816
	進学率 (現役)	大学	38.1	38.2	37.0	38.1	36.1	39.8	37.9	39.7	39.0	40.8
		短期大学	0.7	0.7	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7	0.6	0.7
専門学校		12.0	12.5	13.2	13.6	14.1	11.5	12.3	11.8	12.7	13.1	
熊本	卒業生数		8,487	8,248	8,498	8,148	8,226	8,005	8,020	7,836	7,998	7,588
	進学者数	大学	3,272	3,113	3,203	3,185	3,307	3,332	3,378	3,279	3,343	3,103
		短期大学	97	91	100	96	83	82	81	71	69	62
		専門学校	1,449	1,401	1,368	1,308	1,170	1,192	1,154	1,030	1,160	1,046
	進学率 (現役)	大学	38.6	37.7	37.7	39.1	40.2	41.6	42.1	41.8	41.8	40.9
		短期大学	1.1	1.1	1.2	1.2	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.8
専門学校		17.1	17.0	16.1	16.1	14.2	14.9	14.4	13.1	14.5	13.8	
大分	卒業生数		5,323	5,442	5,592	5,254	5,261	5,209	4,943	5,071	5,153	5,054
	進学者数	大学	2,144	2,127	2,115	1,959	2,069	2,063	1,990	2,031	2,031	2,104
		短期大学	103	108	128	138	93	105	103	87	81	99
		専門学校	864	920	988	925	948	861	836	833	862	805
	進学率 (現役)	大学	40.3	39.1	37.8	37.3	39.3	39.6	40.3	40.1	39.4	41.6
		短期大学	1.9	2.0	2.3	2.6	1.8	2.0	2.1	1.7	1.6	2.0
専門学校		16.2	16.9	17.7	17.6	18.0	16.5	16.9	16.4	16.7	15.9	
宮崎	卒業生数		5,634	5,574	5,822	5,390	5,501	5,385	5,353	5,076	5,164	5,214
	進学者数	大学	2,136	2,085	2,096	2,053	1,982	2,149	2,052	2,002	1,996	2,022
		短期大学	49	46	46	34	48	37	32	33	41	38
		専門学校	796	812	907	752	757	721	724	705	738	782
	進学率 (現役)	大学	37.9	37.4	36.0	38.1	36.0	39.9	38.3	39.4	38.7	38.8
		短期大学	0.9	0.8	0.8	0.6	0.9	0.7	0.6	0.7	0.8	0.7
専門学校		14.1	14.6	15.6	14.0	13.8	13.4	13.5	13.9	14.3	15.0	
鹿児島	卒業生数		8,562	8,132	8,280	7,616	7,562	7,426	7,383	7,204	7,321	7,333
	進学者数	大学	2,986	2,669	2,723	2,391	2,541	2,516	2,528	2,548	2,573	2,576
		短期大学	57	58	65	46	46	62	52	75	56	61
		専門学校	1,495	1,405	1,457	1,386	1,181	1,158	1,208	1,115	1,116	1,185
	進学率 (現役)	大学	34.9	32.8	32.9	31.4	33.6	33.9	34.2	35.4	35.1	35.1
		短期大学	0.7	0.7	0.8	0.6	0.6	0.8	0.7	1.0	0.8	0.8
専門学校		17.5	17.3	17.6	18.2	15.6	15.6	16.4	15.5	15.2	16.2	
沖縄	卒業生数		7,563	7,549	7,470	7,353	7,516	7,107	7,182	7,362	7,194	7,195
	進学者数	大学	2,572	2,578	2,668	2,633	2,801	2,600	2,669	2,713	2,587	2,572
		短期大学	45	44	35	48	46	55	40	29	45	49
		専門学校	1,723	1,745	1,749	1,643	1,745	1,573	1,537	1,493	1,484	1,629
	進学率 (現役)	大学	34.0	34.2	35.7	35.8	37.3	36.6	37.2	36.9	36.0	35.7
		短期大学	0.6	0.6	0.5	0.7	0.6	0.8	0.6	0.4	0.6	0.7
専門学校		22.8	23.1	23.4	22.3	23.2	22.1	21.4	20.3	20.6	22.6	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：九州沖縄：2011～2020年）

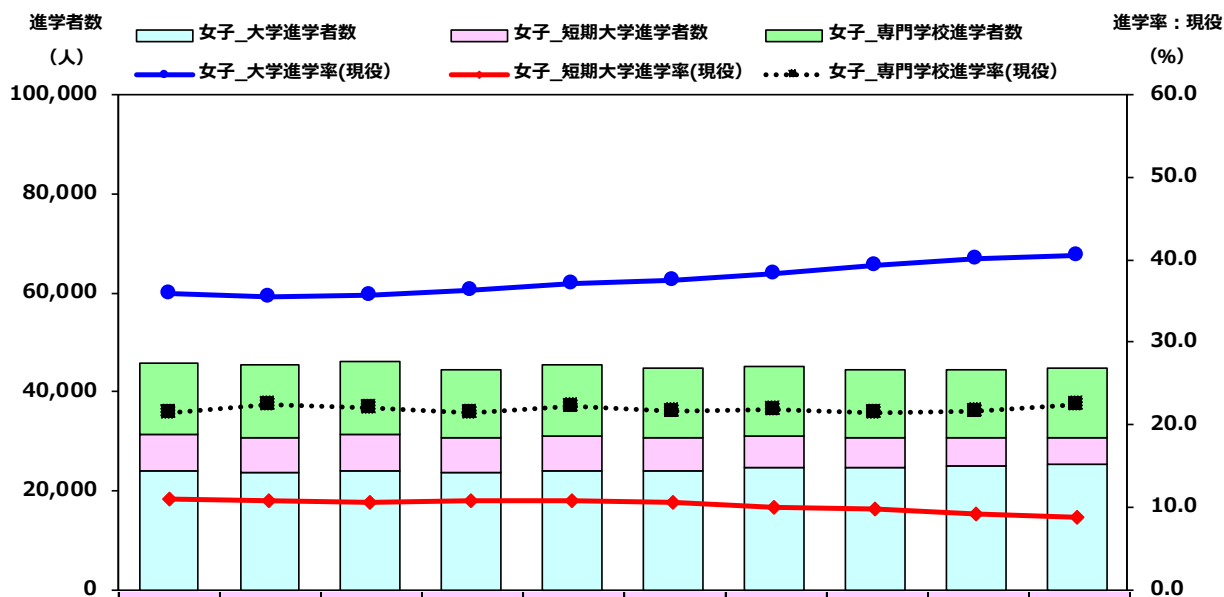
■ 女子では、大学進学率が4.6ポイント上昇し、進学者も1,186人増加する一方、短期大学・専門学校は進学者が減少（合計2,223人減少）

進学者数

- ・ 大学は、2011年24,137人→2020年25,323人（1,186人増加）と、4.9%増加。
- ・ 短期大学は、2011年7,350人→2020年5,487人（1,863人減少）と、25.3%減少。
- ・ 専門学校は、2011年14,400人→2020年14,040人（360人減少）と、2.5%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年36.0%→2020年40.6%（4.6ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年11.0%→2020年8.8%（2.2ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年21.5%→2020年22.5%（1.0ポイント上昇）



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
九州 沖縄	卒業生数	66,974	66,169	67,299	64,818	64,853	64,100	64,220	62,891	62,441	62,314	
	進学者数	大学	24,137	23,533	24,120	23,616	24,061	24,098	24,620	24,766	25,046	25,323
		短期大学	7,350	7,056	7,144	7,003	7,026	6,740	6,427	6,079	5,704	5,487
		専門学校	14,400	14,846	14,817	13,852	14,382	13,916	13,971	13,498	13,571	14,040
	進学率 (現役)	大学	36.0	35.6	35.8	36.4	37.1	37.6	38.3	39.4	40.1	40.6
		短期大学	11.0	10.7	10.6	10.8	10.8	10.5	10.0	9.7	9.1	8.8
専門学校		21.5	22.4	22.0	21.4	22.2	21.7	21.8	21.5	21.7	22.5	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
福岡	卒業生数		20,993	20,905	21,409	20,939	21,124	20,980	21,313	20,706	20,649	20,992
	進学者数	大学	9,053	8,773	9,002	9,103	9,300	9,422	9,647	9,527	9,785	9,893
		短期大学	2,453	2,383	2,342	2,353	2,328	2,232	2,041	1,933	1,815	1,801
		専門学校	3,694	3,901	3,928	3,716	3,796	3,630	4,111	4,075	4,036	4,335
	進学率 （現役）	大学	43.1	42.0	42.0	43.5	44.0	44.9	45.3	46.0	47.4	47.1
		短期大学	11.7	11.4	10.9	11.2	11.0	10.6	9.6	9.3	8.8	8.6
専門学校		17.6	18.7	18.3	17.7	18.0	17.3	19.3	19.7	19.5	20.7	
佐賀	卒業生数		4,151	4,049	4,157	4,034	4,073	3,999	3,953	3,870	3,808	3,865
	進学者数	大学	1,407	1,369	1,412	1,366	1,470	1,407	1,438	1,465	1,472	1,419
		短期大学	426	436	447	409	405	395	399	336	337	328
		専門学校	872	876	921	880	904	848	775	757	807	829
	進学率 （現役）	大学	33.9	33.8	34.0	33.9	36.1	35.2	36.4	37.9	38.7	36.7
		短期大学	10.3	10.8	10.8	10.1	9.9	9.9	10.1	8.7	8.8	8.5
専門学校		21.0	21.6	22.2	21.8	22.2	21.2	19.6	19.6	21.2	21.4	
長崎	卒業生数		7,164	6,947	6,980	6,543	6,444	6,372	6,375	6,286	6,034	5,932
	進学者数	大学	2,550	2,485	2,493	2,393	2,220	2,336	2,388	2,467	2,465	2,462
		短期大学	598	619	592	605	579	624	587	516	486	474
		専門学校	1,613	1,491	1,589	1,407	1,612	1,345	1,422	1,275	1,262	1,320
	進学率 （現役）	大学	35.6	35.8	35.7	36.6	34.5	36.7	37.5	39.2	40.9	41.5
		短期大学	8.3	8.9	8.5	9.2	9.0	9.8	9.2	8.2	8.1	8.0
専門学校		22.5	21.5	22.8	21.5	25.0	21.1	22.3	20.3	20.9	22.3	
熊本	卒業生数		8,148	8,045	8,142	7,820	7,685	7,714	7,602	7,569	7,534	7,343
	進学者数	大学	3,003	2,991	3,045	3,012	3,017	3,023	3,083	3,104	3,120	3,038
		短期大学	599	610	566	632	568	511	492	476	436	450
		専門学校	1,913	1,917	1,813	1,682	1,707	1,730	1,615	1,626	1,691	1,632
	進学率 （現役）	大学	36.9	37.2	37.4	38.5	39.3	39.2	40.6	41.0	41.4	41.4
		短期大学	7.4	7.6	7.0	8.1	7.4	6.6	6.5	6.3	5.8	6.1
専門学校		23.5	23.8	22.3	21.5	22.2	22.4	21.2	21.5	22.4	22.2	
大分	卒業生数		5,339	5,179	5,409	5,165	5,256	5,134	5,159	5,012	4,820	4,908
	進学者数	大学	1,838	1,695	1,781	1,667	1,712	1,667	1,673	1,774	1,688	1,755
		短期大学	809	716	773	744	820	754	732	686	640	650
		専門学校	1,264	1,230	1,320	1,271	1,263	1,257	1,230	1,124	1,002	1,116
	進学率 （現役）	大学	34.4	32.7	32.9	32.3	32.6	32.5	32.4	35.4	35.0	35.8
		短期大学	15.2	13.8	14.3	14.4	15.6	14.7	14.2	13.7	13.3	13.2
専門学校		23.7	23.7	24.4	24.6	24.0	24.5	23.8	22.4	20.8	22.7	
宮崎	卒業生数		5,282	5,233	5,535	5,263	5,251	5,272	5,011	4,952	4,996	4,866
	進学者数	大学	1,749	1,749	1,807	1,715	1,806	1,828	1,774	1,803	1,784	1,778
		短期大学	591	555	648	605	614	531	566	531	497	455
		専門学校	1,063	1,159	1,074	1,030	1,037	1,105	932	934	1,029	1,009
	進学率 （現役）	大学	33.1	33.4	32.6	32.6	34.4	34.7	35.4	36.4	35.7	36.5
		短期大学	11.2	10.6	11.7	11.5	11.7	10.1	11.3	10.7	9.9	9.4
専門学校		20.1	22.1	19.4	19.6	19.7	21.0	18.6	18.9	20.6	20.7	
鹿児島	卒業生数		8,445	8,189	8,167	7,758	7,652	7,502	7,382	7,285	7,286	7,094
	進学者数	大学	2,209	2,134	2,092	2,037	2,044	2,046	2,109	2,141	2,120	2,141
		短期大学	1,335	1,243	1,281	1,174	1,155	1,167	1,086	1,071	1,019	909
		専門学校	1,960	2,114	1,968	1,796	1,856	1,775	1,765	1,624	1,730	1,686
	進学率 （現役）	大学	26.2	26.1	25.6	26.3	26.7	27.3	28.6	29.4	29.1	30.2
		短期大学	15.8	15.2	15.7	15.1	15.1	15.6	14.7	14.7	14.0	12.8
専門学校		23.2	25.8	24.1	23.2	24.3	23.7	23.9	22.3	23.7	23.8	
沖縄	卒業生数		7,452	7,622	7,500	7,296	7,368	7,127	7,425	7,211	7,314	7,314
	進学者数	大学	2,328	2,337	2,488	2,323	2,492	2,369	2,508	2,485	2,612	2,837
		短期大学	539	494	495	481	557	526	524	530	474	420
		専門学校	2,021	2,158	2,204	2,070	2,207	2,226	2,121	2,083	2,014	2,113
	進学率 （現役）	大学	31.2	30.7	33.2	31.8	33.8	33.2	33.8	34.5	35.7	38.8
		短期大学	7.2	6.5	6.6	6.6	7.6	7.4	7.1	7.3	6.5	5.7
専門学校		27.1	28.3	29.4	28.4	30.0	31.2	28.6	28.9	27.5	28.9	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)

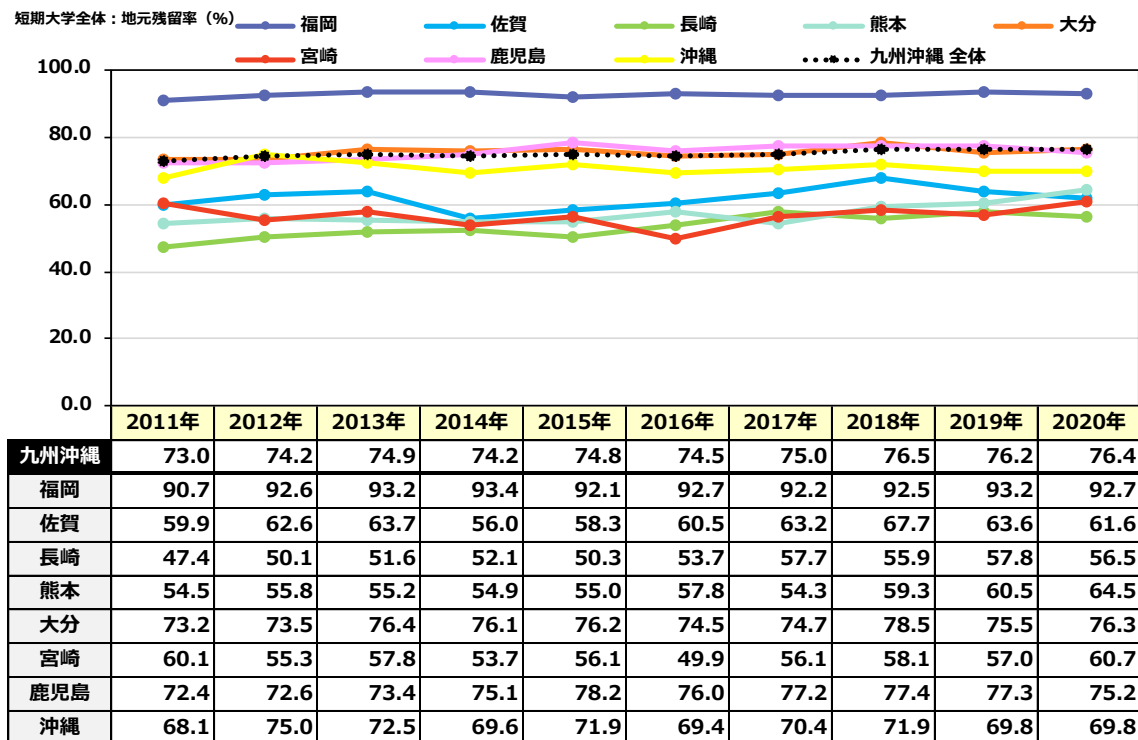
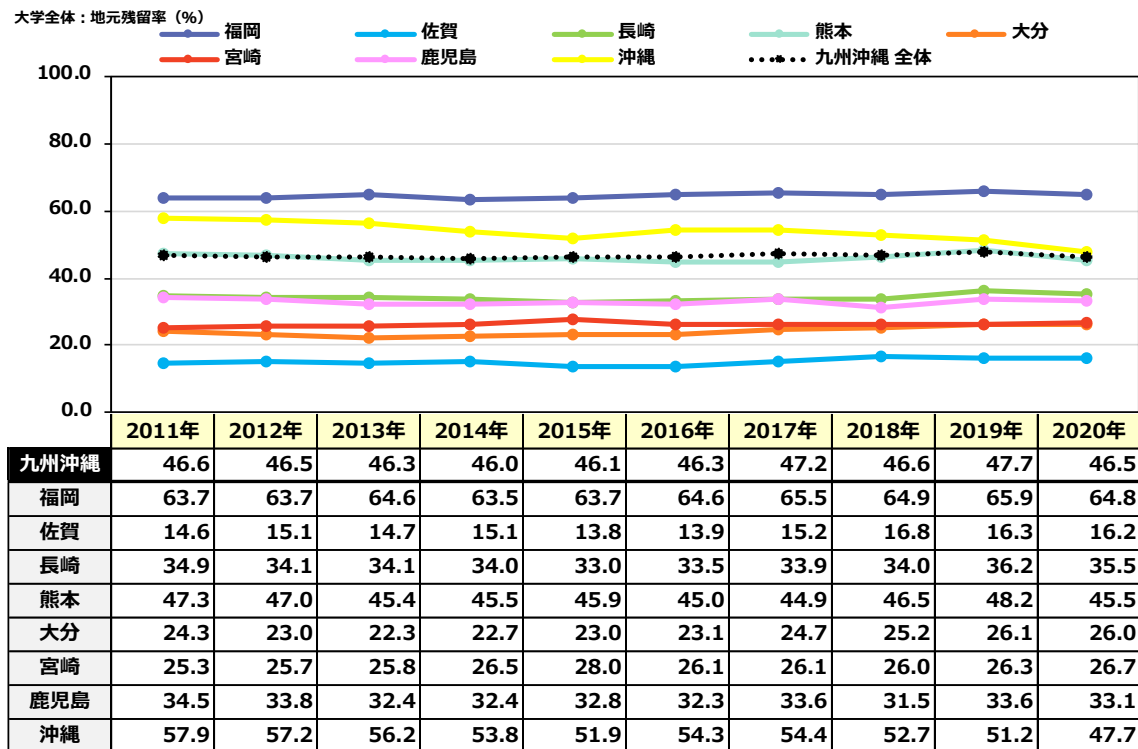
※専門学校＝専修学校専門課程

地元残留率の推移（全体：九州沖縄：2011～2020年）

■ 大学は、2011年46.6%→2020年46.5%（0.1ポイント低下）

短期大学は、2011年73.0%→2020年76.4%（3.4ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、大分県（2011年24.3%→2020年26.0%、1.7ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、熊本県（2011年54.5%→2020年64.5%、10.0ポイント上昇）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

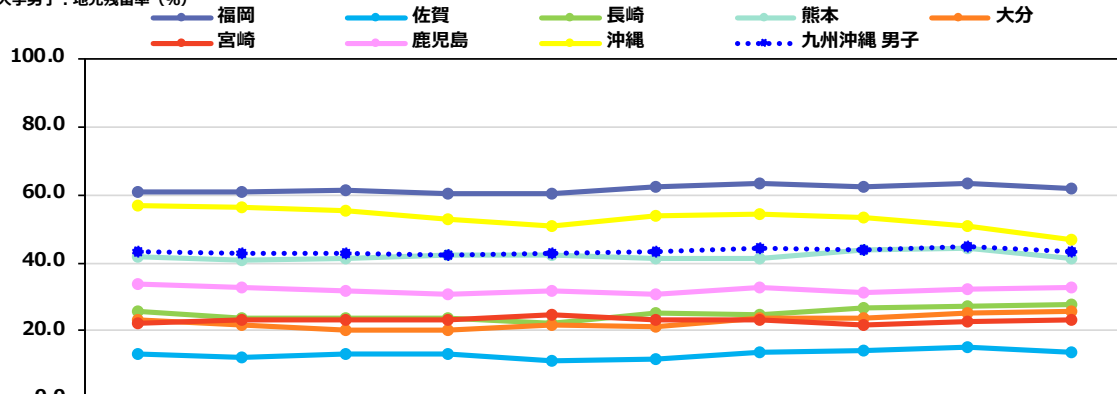
・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移（男子：九州沖縄：2011～2020年）

■ 大学は、2011年43.3%→2020年43.2%（0.1ポイント低下）
 短期大学は、2011年67.2%→2020年71.2%（4.0ポイント上昇）

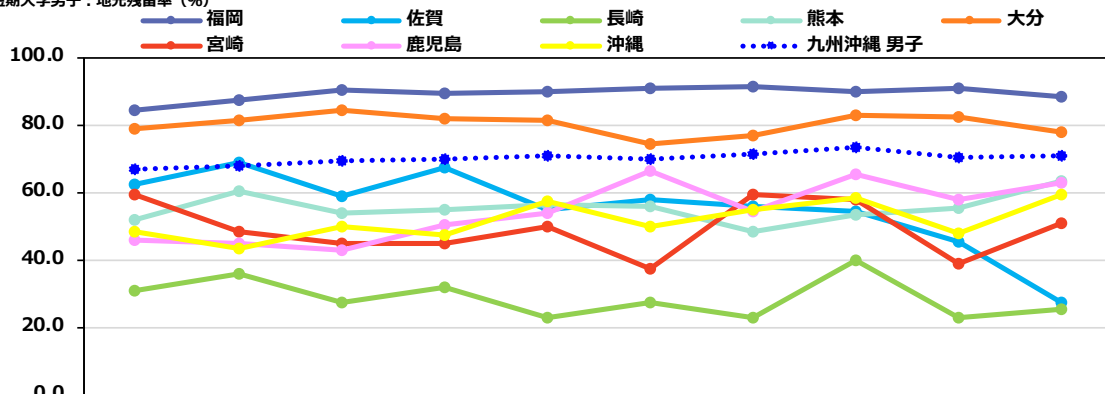
- ・ 大学で上昇率が高いのは、長崎県（2011年25.7%→2020年27.9%、2.2ポイント上昇）、大分県（2011年23.3%→2020年25.5%、2.2ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、鹿児島県（2011年46.2%→2020年63.2%、17.0ポイント上昇）。

大学男子：地元残留率（%）



	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
九州沖縄	43.3	42.9	42.9	42.4	42.7	43.4	44.5	44.0	44.6	43.2
福岡	61.0	61.0	61.5	60.3	60.5	62.4	63.3	62.2	63.1	61.9
佐賀	13.3	12.2	13.4	13.1	11.4	11.7	13.7	14.3	15.1	13.6
長崎	25.7	23.9	23.5	23.9	22.3	25.2	24.7	26.9	27.5	27.9
熊本	41.7	41.0	41.2	42.1	42.1	41.2	41.1	43.8	44.5	41.1
大分	23.3	21.5	20.2	20.2	21.8	21.0	23.9	23.8	25.2	25.5
宮崎	22.3	23.3	23.0	23.3	24.9	23.4	23.1	21.5	22.5	23.2
鹿児島	33.7	32.7	31.6	30.9	31.8	30.9	33.0	31.5	32.5	32.8
沖縄	56.8	56.4	55.4	52.7	50.9	54.0	54.2	53.2	50.6	46.7

短期大学男子：地元残留率（%）



	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
九州沖縄	67.2	68.2	69.3	70.2	70.9	70.1	71.3	73.3	70.6	71.2
福岡	84.5	87.8	90.4	89.8	89.9	91.3	91.6	89.9	91.0	88.8
佐賀	62.5	69.1	58.8	67.4	54.8	58.0	56.1	54.3	45.7	27.6
長崎	30.9	35.7	27.3	32.1	22.7	27.3	22.9	40.0	23.1	25.6
熊本	51.9	60.7	54.2	55.2	56.5	56.1	48.6	53.7	55.6	63.3
大分	79.2	81.7	84.5	81.8	81.7	74.5	77.2	82.9	82.7	78.2
宮崎	59.3	48.4	45.0	45.2	50.0	37.5	59.5	57.8	39.1	51.2
鹿児島	46.2	45.2	42.9	50.7	54.2	66.7	54.4	65.6	57.9	63.2
沖縄	48.3	43.3	50.0	47.4	57.4	50.0	55.2	58.3	48.2	59.4

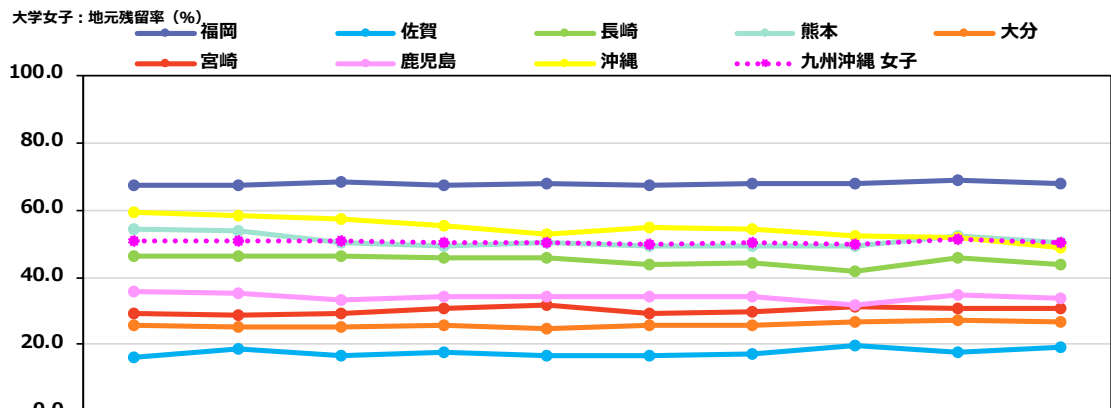
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

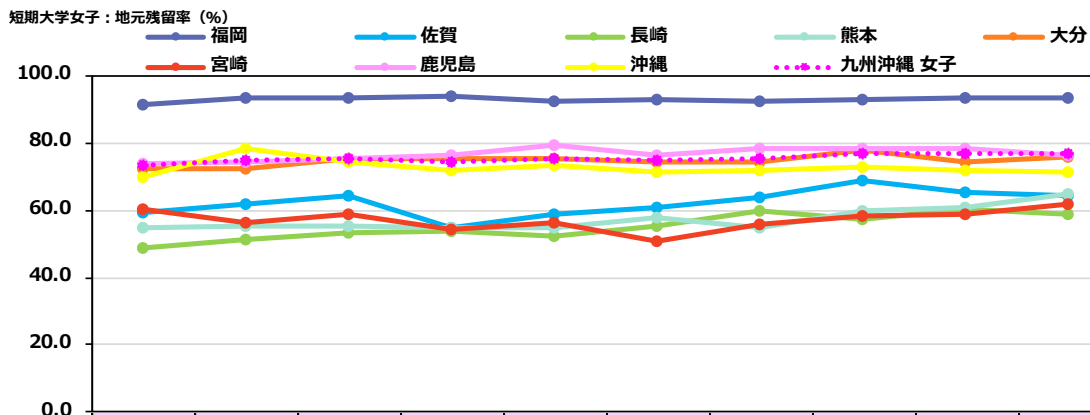
地元残留率の推移（女子：九州沖縄：2011～2020年）

■ 大学は、2011年50.8%→2020年50.2%（0.6ポイント低下）
 短期大学は、2011年73.6%→2020年77.0%（3.4ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、佐賀県（2011年16.4%→2020年19.4%、3.0ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、長崎県（2011年48.8%→2020年59.0%、10.2ポイント上昇）。



	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
九州沖縄	50.8	50.9	50.6	50.4	50.2	50.0	50.5	49.8	51.3	50.2
福岡	67.1	67.2	68.4	67.4	67.7	67.2	68.0	68.1	69.1	68.1
佐賀	16.4	18.9	16.5	17.6	16.8	16.8	17.1	19.8	17.8	19.4
長崎	46.1	46.2	46.4	45.8	45.6	43.6	44.5	41.8	45.6	44.0
熊本	54.1	54.0	50.2	49.3	50.4	49.5	49.4	49.5	52.4	50.3
大分	25.5	25.0	25.0	25.8	24.5	25.9	25.8	26.9	27.1	26.7
宮崎	29.1	28.7	29.5	30.6	31.7	29.5	29.7	31.4	30.6	31.0
鹿児島	35.7	35.4	33.5	34.4	34.4	34.2	34.4	31.6	34.9	33.6
沖縄	59.1	58.2	57.2	55.1	53.0	54.6	54.5	52.2	51.9	48.7

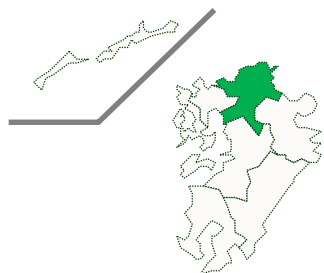


	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
九州沖縄	73.6	74.8	75.5	74.6	75.2	75.0	75.4	76.8	76.8	77.0
福岡	91.4	93.2	93.5	93.8	92.3	92.9	92.3	92.9	93.5	93.3
佐賀	59.5	61.9	64.2	54.8	58.6	60.7	63.8	69.0	65.3	64.4
長崎	48.8	51.3	53.3	53.8	52.2	55.4	59.6	57.2	60.5	59.0
熊本	54.8	55.2	55.3	54.9	54.8	58.0	55.0	59.8	61.0	64.6
大分	72.5	72.5	75.2	75.3	75.6	74.5	74.3	78.1	74.6	76.0
宮崎	60.2	56.1	59.0	54.2	56.5	50.8	55.9	58.1	58.6	61.6
鹿児島	73.8	74.3	75.6	76.5	79.5	76.5	78.6	78.3	78.6	76.2
沖縄	70.1	78.5	74.6	71.9	73.2	71.5	71.9	72.7	72.1	71.3

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

福岡県



学校数

大学 : 34 (国立 3・公立 4・私立 27)
 短期大学 : 18 (私立 18)
 専門学校 : 138 (国立 1・私立 137)

卒業者数

2011年42,241人→2020年41,909人 (332人減少)

進学者数

大学 : 2011年19,382人→2020年19,988人 (606人増加)
 短期大学 : 2011年 2,707人→2020年 2,070人 (637人減少)
 専門学校 : 2011年 6,524人→2020年 7,407人 (883人増加)

進学率(現役)

大学 : 2011年45.9%→2020年47.7% (1.8ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 6.4%→2020年 4.9% (1.5ポイント低下)
 専門学校 : 2011年15.4%→2020年17.7% (2.3ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年63.7%→2020年64.8% (1.1ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年90.7%→2020年92.7% (2.0ポイント上昇)

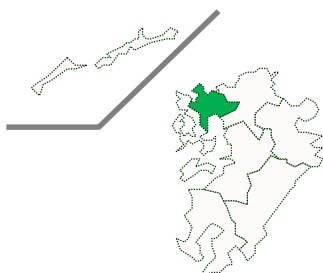
入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位佐賀 (1,409人)、2位熊本 (1,333人)、3位長崎 (1,208人)
 短期大学 : 1位大分 (150人)、2位長崎 (144人)、3位鹿児島 (118人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (1,348人)、2位山口 (704人)、3位熊本 (695人)
 短期大学 : 1位大分 (43人)、2位佐賀 (31人)、3位東京 (18人)

佐賀県



学校数

大学 : 2 (国立 1・私立 1)
 短期大学 : 3 (私立 3)
 専門学校 : 23 (公立 1・私立 22)

卒業者数

2011年8,732人→2020年7,976人 (756人減少)

進学者数

大学 : 2011年3,149人→2020年3,054人 (95人減少)
 短期大学 : 2011年 465人→2020年 349人 (116人減少)
 専門学校 : 2011年1,418人→2020年1,310人 (108人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年36.1%→2020年38.3% (2.2ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 5.3%→2020年 4.4% (0.9ポイント低下)
 専門学校 : 2011年16.2%→2020年16.4% (0.2ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年14.6%→2020年16.2% (1.6ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年59.9%→2020年61.6% (1.7ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (676人)、2位長崎 (193人)、3位熊本 (110人)
 短期大学 : 1位福岡 (31人)、2位長崎 (19人)、3位熊本 (12人)

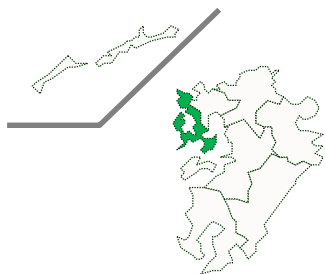
入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (1,409人)、2位東京 (299人)、3位長崎 (197人)
 短期大学 : 1位福岡 (112人)、2位大分 (12人)、3位東京 (6人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門学校

長崎県



学校数

大学 : 8 (国立 1・公立 1・私立 6)
 短期大学 : 2 (私立 2)
 専門学校 : 29 (公立 1・私立 28)

卒業生数

2011年14,577人→2020年12,161人 (2,416人減少)

進学者数

大学 : 2011年5,377人→2020年5,005人 (372人減少)
 短期大学 : 2011年 652人→2020年 515人 (137人減少)
 専門学校 : 2011年2,501人→2020年2,136人 (365人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年36.9%→2020年41.2% (4.3ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 4.5%→2020年 4.2% (0.3ポイント低下)
 専門学校 : 2011年17.2%→2020年17.6% (0.4ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年34.9%→2020年35.5% (0.6ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年47.4%→2020年56.5% (9.1ポイント上昇)

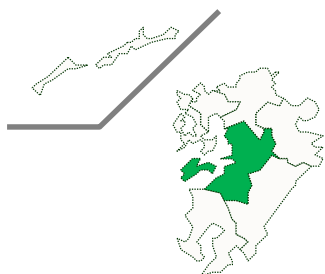
入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (501人)、2位佐賀 (197人)、3位熊本 (176人)
 短期大学 : 1位鹿児島 (4人)、2位沖縄・佐賀 (3人)

入学者流出先

大学 : 1位福岡 (1,208人)、2位東京 (404人)、3位熊本 (244人)
 短期大学 : 1位福岡 (144人)、2位大分 (23人)、3位佐賀 (24人)

熊本県



学校数

大学 : 9 (国立 1・公立 1・私立 7)
 短期大学 : 2 (私立 2)
 専門学校 : 45 (公立 4・私立 41)

卒業生数

2011年16,635人→2020年14,931人 (1,704人減少)

進学者数

大学 : 2011年6,275人→2020年6,141人 (134人減少)
 短期大学 : 2011年 696人→2020年 512人 (184人減少)
 専門学校 : 2011年3,362人→2020年2,678人 (684人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年37.7%→2020年41.1% (3.4ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 4.2%→2020年 3.4% (0.8ポイント低下)
 専門学校 : 2011年20.2%→2020年17.9% (2.3ポイント低下)

残留率

大学 : 2011年47.3%→2020年45.5% (1.8ポイント低下)
 短期大学 : 2011年54.5%→2020年64.5% (10.0ポイント増加)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (695人)、2位鹿児島 (340人)、3位宮崎 (277人)
 短期大学 : 1位福岡・鹿児島 (6人)、2位北海道・長崎・宮崎 (2人)

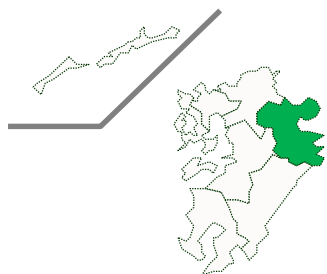
入学者流出先

大学 : 1位福岡 (1,333人)、2位東京 (512人)、3位鹿児島 (228人)
 短期大学 : 1位福岡 (116人)、2位大分 (28人)、3位佐賀 (12人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業生数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

大分県



学校数

大学 : 5 (国立 1・公立 1・私立 3)
 短期大学 : 5 (公立 1・私立 4)
 専門学校 : 41 (公立 1・私立 40)

卒業者数

2011年10,662人→2020年9,962人 (700人減少)

進学者数

大学 : 2011年3,982人→2020年3,859人 (123人減少)
 短期大学 : 2011年 912人→2020年 749人 (163人減少)
 専門学校 : 2011年2,128人→2020年1,921人 (207人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年37.3%→2020年38.7% (1.4ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 8.6%→2020年 7.5% (1.1ポイント低下)
 専門学校 : 2011年20.0%→2020年19.3% (0.7ポイント低下)

残留率

大学 : 2011年24.3%→2020年26.0% (1.7ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年73.2%→2020年76.3% (3.1ポイント上昇)

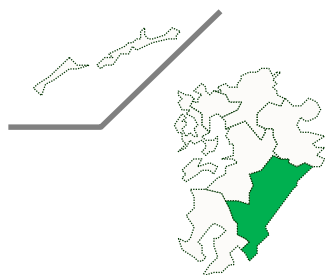
入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (314人)、2位宮崎 (205人)、3位熊本・長崎 (153人)
 短期大学 : 1位福岡 (43人)、2位宮崎 (35人)、3位熊本 (28人)

入学者流出先

大学 : 1位福岡 (1,046人)、2位東京 (306人)、3位熊本 (236人)
 短期大学 : 1位福岡 (150人)、2位大阪 (8人)、3位佐賀 (5人)

宮崎県



学校数

大学 : 7 (国立 1・公立 2・私立 4)
 短期大学 : 2 (私立 2)
 専門学校 : 32 (公立 1・私立 31)

卒業者数

2011年10,916人→2020年10,080人 (836人減少)

進学者数

大学 : 2011年3,885人→2020年3,800人 (85人減少)
 短期大学 : 2011年 640人→2020年 493人 (147人減少)
 専門学校 : 2011年1,859人→2020年1,791人 (68人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年35.6%→2020年37.7% (2.1ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 5.9%→2020年 4.9% (1.0ポイント低下)
 専門学校 : 2011年17.0%→2020年17.8% (0.8ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年25.3%→2020年26.7% (1.4ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年60.1%→2020年60.7% (0.6ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位鹿児島 (200人)、2位福岡 (163人)、3位大分 (126人)
 短期大学 : 1位鹿児島 (6人)、2位長崎・熊本 (2人)

入学者流出先

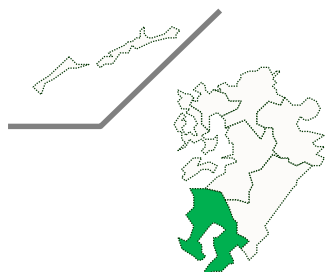
大学 : 1位福 (820人)、2位東京 (363人)、3位熊本 (277人)
 短期大学 : 1位福岡 (97人)、2位大分 (35人)、3位鹿児島 (25人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

九州沖縄工リア概要 (全体：県別)

鹿児島県



学校数

大学 : 6 (国立 2・私立 4)
 短期大学 : 4 (公立 1・私立 3)
 専門学校 : 38 (公立 2・私立 36)

卒業者数

2011年17,007人→2020年14,427人 (2,580人減少)

進学者数

大学 : 2011年5,195人→2020年4,717人 (478人減少)
 短期大学 : 2011年1,392人→2020年 970人 (422人減少)
 専門学校 : 2011年3,455人→2020年2,871人 (584人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年30.5%→2020年32.7% (2.2ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 8.2%→2020年 6.7% (1.5ポイント低下)
 専門学校 : 2011年20.3%→2020年19.9% (0.4ポイント低下)

残留率

大学 : 2011年34.5%→2020年33.1% (1.4ポイント低下)
 短期大学 : 2011年72.4%→2020年75.2% (2.8ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (274人)、2位宮崎 (231人)、3位熊本 (228人)
 短期大学 : 1位宮崎 (25人)、2位熊本 (3人)、3位京都・福岡・長崎 (2人)

入学者流出先

大学 : 1位福岡 (1,062人)、2位東京 (585人)、3位熊本 (340人)
 短期大学 : 1位福岡 (118人)、2位大分 (25人)、3位東京 (22人)

学校数

大学 : 8 (国立 1・公立3・私立 4)
 短期大学 : 2 (私立 2)
 専門学校 : 53 (私立 53)

卒業者数

2011年15,015人→2020年14,509人 (506人減少)

進学者数

大学 : 2011年4,900人→2020年5,409人 (509人増加)
 短期大学 : 2011年 584人→2020年 469人 (115人増加)
 専門学校 : 2011年3,744人→2020年3,742人 (2人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年32.6%→2020年37.3% (4.7ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 3.9%→2020年 3.2% (0.7ポイント低下)
 専門学校 : 2011年24.9%→2020年25.8% (0.9ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年57.9%→2020年47.7% (10.2ポイント低下)
 短期大学 : 2011年68.1%→2020年69.8% (1.7ポイント上昇)

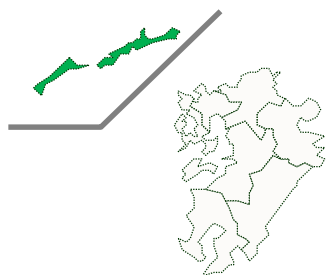
入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位鹿児島 (78人)、2位福岡 (54人)、3位東京 (48人)
 短期大学 : 1位新潟・東京・愛知・福岡・鹿児島 (1人)

入学者流出先

大学 : 1位東京 (778人)、2位福岡 (456人)、3位大阪 (249人)
 短期大学 : 1位福岡 (26人)、2位東京 (23人)、3位岐阜・大阪 (20人)

沖縄県



- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

小学校教員免許取得できる近隣大学の入試状況

大学	入学年度	定員	志願者	志願倍率	合格者	入学者	充足率
福岡教育大学 教育学部 初等教育教員養成課程	2019	385	1,207	3.1	416	402	104.4%
	2020	385	1,091	2.8	411	396	102.9%
	2021	385	1,272	3.3	415	391	101.6%
西南学院大学 人間科学部 児童教育学科	2019	100	1,343	13.4	405	99	99.0%
	2020	100	1,076	10.8	358	90	90.0%
	2021	100	959	9.6	345	101	101.0%
中村学園大学 教育学部 児童幼児教育学科	2019	220	1,318	6.0	608	250	113.6%
	2020	220	1,273	5.8	641	250	113.6%
	2021	220	1,188	5.4	592	268	121.8%
筑紫女学園大学 人間科学部 人間科学科初等教育・保育専攻	2019	170	542	3.2	342	156	91.8%
	2020	170	543	3.2	349	149	87.6%
	2021	170	382	2.2	348	139	81.8%
福岡女学院大学 人間関係学部 子ども発達学科	2019	120	317	2.6	240	104	86.7%
	2020	120	365	3.0	289	131	109.2%
	2021	120	252	2.1	242	112	93.3%
九州女子大学 人間科学部 人間発達学科人間発達学専攻	2019	130	216	1.7	202	151	116.2%
	2020	130	200	1.5	185	135	103.8%
	2021	130	150	1.2	144	100	76.9%
上記大学4大学3年間の平均		3,375	13,694	4.1	6,532	3,424	101.5%

「AIの将来への影響」編

2020年2月5日
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ株式会社リクルートマーケティングパートナーズ・一般社団法人全国高等学校PTA連合会合同調査
第9回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2019

保護者の57%が 子どもの将来に「AIの影響がある」と回答 前回調査より18ポイント増加

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都品川区 代表取締役社長：柏村 美生）と一般社団法人全国高等学校PTA連合会（所在地：東京都千代田区 会長：牧田 和樹）は、高校2年生とその保護者に対し、進路に関する考え方やコミュニケーションの実態を探る調査を実施いたしました。ここに集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。本調査によるリリースは「教育改革」編、「AIの将来への影響」編の計2つあり、本リリースは「AIの将来への影響」編です。

【将来へのAI影響について】

- AIは将来に「影響がある」と回答した高校生は保護者より9ポイントも高かった。…P.3
 - ・ 「影響がある」 高校生（65.9%） > 保護者（56.5%）
- 「影響がある」を経年でみると、高校生より保護者の方が増加幅が大きかった。…P.3

高校生	2017年:52.0%	→	2019年:65.9%	+13.9ポイント
保護者	2017年:38.7%	→	2019年:56.5%	+17.8ポイント

【これからの社会について】

- 高校生の51%、保護者の37%が、これからの社会は「好ましい」と回答。
高校生は「好ましい」が「好ましくない」を上回り、半数を超えている。…P.4
 - ・ 高校生 「好ましい」（51.4%） > 「好ましくない」（44.4%）
 - ・ 保護者 「好ましい」（37.1%） < 「好ましくない」（46.8%）

【就いてほしい職業・就きたい職業】

- 高校生の「就きたい職業」のトップは「教師」11%。
- 保護者の「就いてほしい職業」のトップは「公務員」37%。…P.5

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校生と保護者の進路に関する意識調査2019」
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ・一般社団法人全国高等学校PTA連合会合同調査”と明記ください。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

http://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【リクルート進学総研 WEBサイト】

<http://souken.shingakunet.com/>

【調査概要】

- ・ 調査目的：高校生を持つ保護者とその子どもにおけるコミュニケーションの実態と進路観の現状を把握する
- ・ 調査主管：株式会社リクルートマーケティングパートナーズ、一般社団法人全国高等学校PTA連合会
- ・ 調査対象：高校2年生とその保護者
一般社団法人全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県、各3校ずつ計27校の公立高校
※各校：2年生2クラスの生徒とその保護者

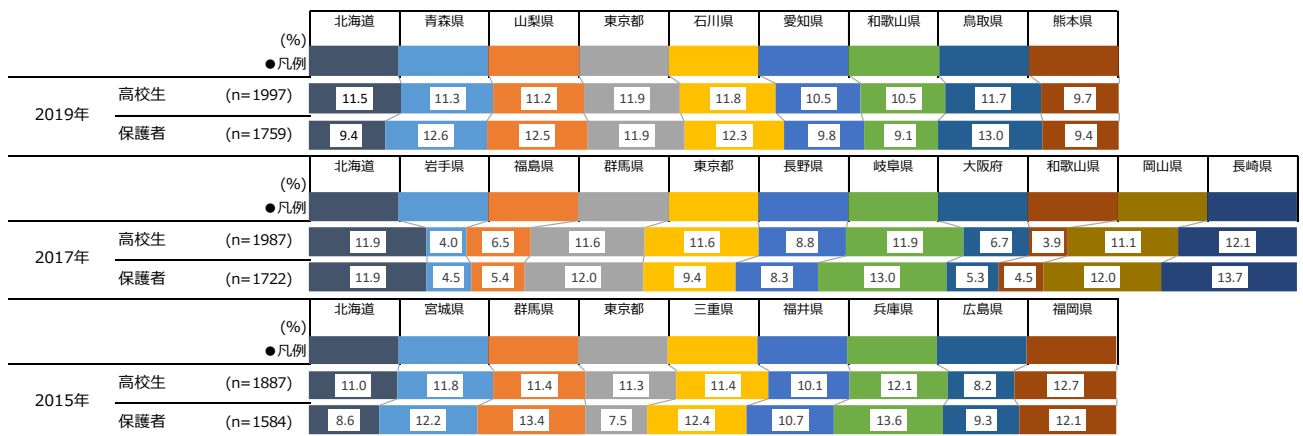
2019年	北海道 青森 山梨 東京 石川 愛知 和歌山 鳥取 熊本
2017年	北海道 岩手 福島 群馬 東京 長野 岐阜 大阪 和歌山 岡山 長崎
2015年	北海道 宮城 群馬 東京 三重 福井 兵庫 広島 福岡

※調査実施校所在地は毎年変わるため、時系列データは参考

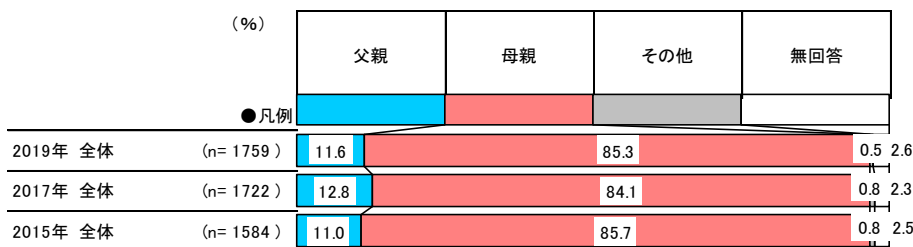
- ・ 調査期間：2019年9月1日（日）～2019年10月25日（金）回収終了
- ・ 調査方法：(1) 高校生 ホームルーム時にアンケート実施
 (2) 保護者 高校生から保護者へアンケートを手渡しで依頼、実施
 クラスごと学級担任が高校生・保護者アンケートをまとめ、学校ごとに回収
- ・ 有効回収数：(1) 高校生 1997名 ※全問無回答1名を除く
 (2) 保護者 1759名 ※全問無回答6名を除く
 ※調査対象校のうち1校において、下記設問に不備がある調査票が配布されたため、集計対象から除外した。
 高校生：教育改革への期待と不安（本リリース掲載なし）
 保護者：教育改革への期待と不安、子どもとの日常コミュニケーション（本リリース掲載なし）

【回答者プロフィール】

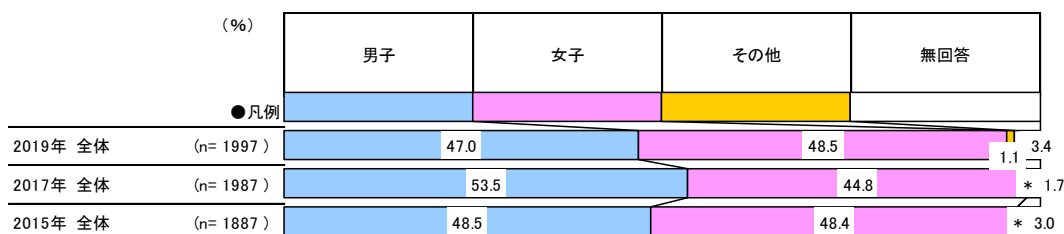
【高校生・保護者】時系列 調査対象校所在都道府県（全体）



【保護者】時系列 続柄（全体／単一回答）



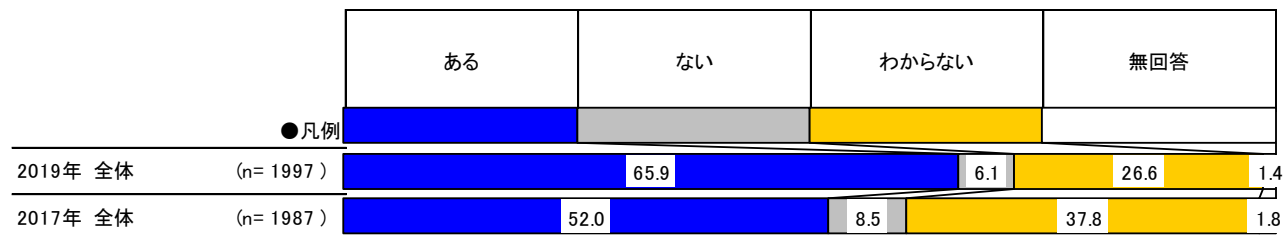
【高校生】時系列 性別（全体／単一回答）



【高校生・保護者：AI(人工知能)などの技術革新の発達による将来への影響】

- AIの将来への影響について、「影響がある」と回答した
 高校生は66%、保護者は57%と、高校生のほうが9ポイント高かった。
- 「影響がある」を経年でみると、保護者が18ポイント増加し半数を超えた。
 高校生 2017年:52.0% → 2019年:65.9% +13.9ポイント
 保護者 2017年:38.7% → 2019年:56.5% +17.8ポイント

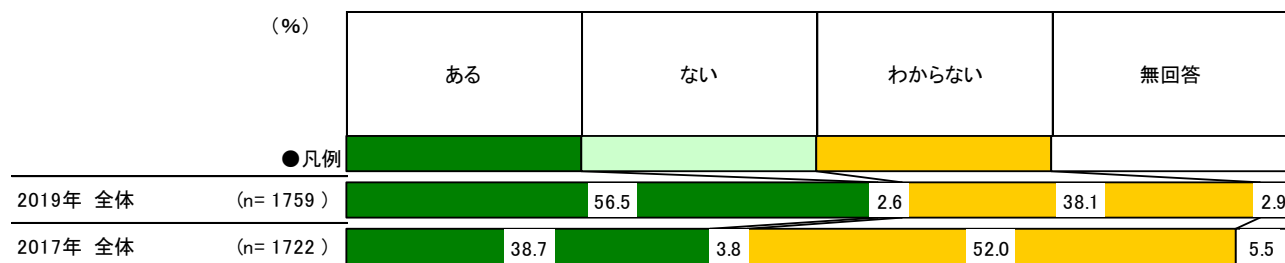
【高校生】時系列 自分の将来にAI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか（全体／単一回答）



【高校生】AIが普及していく時代に自分に必要な力について（フリーコメント）

- 「AIでは再現できない能力や技術を用いて新しい物を創造する力。」
- 「AIと共生していく力。AIを利用する力。」
- 「AIを適切に、有効的に利用しつつ、人間の主体性を失わない。」
- 「アイデア力、『答えのない課題』に対する意欲、知識、対応力。」
- 「クリエイティブな発想を生み出す力。」
- 「AIにまさる能力がなくても、人には感情があるから、人と一緒に仕事するうえで人の気持ちを考えて働ける力。」
- 「AIと共に生きていく適応能力。」

【保護者】時系列 子どもの将来にAI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか（全体／単一回答）



【保護者】AIが普及していく時代に子どもたちに必要な力について（フリーコメント）

- 「AI（人工知能）が作業をするには人間と違いエラーなど起こさない。完璧な仕上がりは人間より優れている。だが、人間にはAIにはない人間社会で大切なもの“思いやり”を持っている。グローバル化を生きる多様性を重視するそんな力を子どもたちには大事にしてほしい。」
- 「新しい価値や仕事を想像する力。」
- 「人間力と倫理観。」
- 「正しい情報を入手し、自ら判断する力。」
- 「AIと共存する力が必要。」

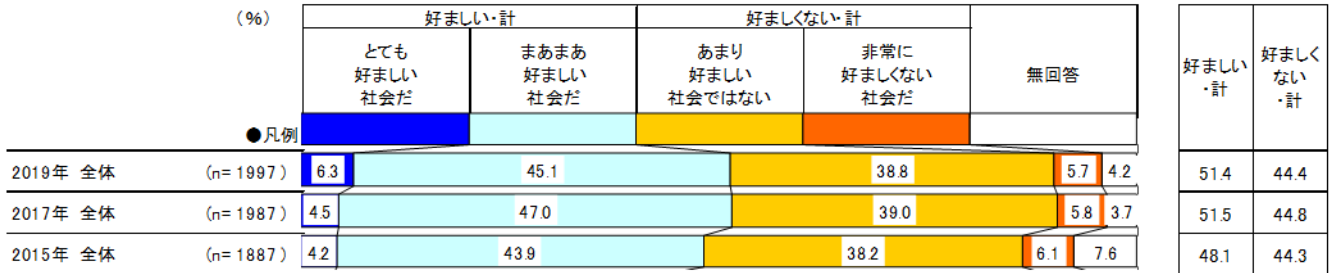
【高校生・保護者：これからの社会は好ましいか】

■ 高校生の51%、保護者の37%が、これからの社会は「好ましい」と回答。

高校生は「好ましい」が「好ましくない」を上回り、半数を超えている。

- ・ 高校生 「好ましい」 (51.4%) > 「好ましくない」 (44.4%)
- ・ 保護者 「好ましい」 (37.1%) < 「好ましくない」 (46.8%)

【高校生】時系列 未来展望：これからの社会は好ましいか（全体／単一回答）



【高校生】

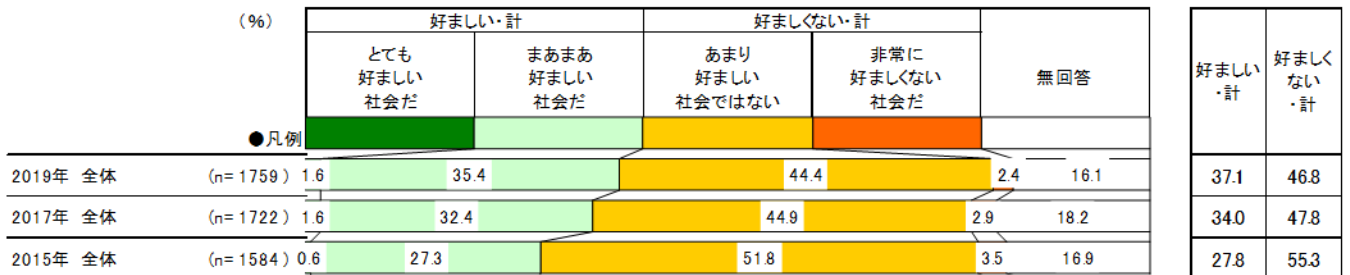
好ましい：

「グローバル化になっていくので、自ら発信していく力が必要であり、多くの人と交流できるから。」
 「働き方改革や男女平等など社会問題に社会全体で取り組んでおり、改善されていくと思うから。」
 「女性も働きやすくなっているから。」 「個性ある人に活躍のチャンスがあるから。」

好ましくない：

「これからA Iの時代になり、人手が余り、職につくことができるか不安だから。」
 「SNSなどで大量の情報が飛び交うから、これからどうなっていくのか予想しづらいから。」
 「オリンピックが終わったら景気が良くなる。」 「ブラックな企業が増えているから。」

【保護者】時系列 これからの社会は好ましい社会か（全体／単一回答）



【保護者】

好ましい：

「多様性が認められている社会だから。」 「従来の価値観にとらわれない新しい発想が求められる時代だから」
 「グローバル化で視野を広げていき、語学をはじめ様々な知識を身につけて活かしていける事ができる為。」
 「IT化が進む中、働き方・学び方が多様化、国際化し、選択肢が増えたため。」
 「男女格差の縮小、選択の自由の拡大。」

好ましくない：

「A Iの普及や海外からの労働者の増加により、より高度な能力を要求されるようになるから。」
 「SNSやスマホの普及により、様々な場面で色んな問題が起こり、規制が増えていくであろうから。」
 「親の経済力で子供の将来がきまるから。」
 「環境問題や年金問題、また高齢社会になっていく事への問題などすべて先送りになっているので。」

【高校生・保護者：就きたい（就いてほしい）職業】

■ 高校生の「就きたい職業」のトップは「教師」11%。

・男子 1位 「公務員」 女子 1位 「看護師」

■ 保護者の「就いてほしい職業」のトップは「公務員」37%。

・子どもの性別：男子 1位 「公務員」 女子 1位 「公務員」

【高校生】就きたい職業(自由記入をコーディング/複数回答/就きたい職業があると回答したうち、有効記入があったもの)

全体 (n=1093)	男子 (n= 455)	女子 (n= 601)
1 教師 11.4	1 公務員 15.6	1 看護師 14.6
2 公務員 10.0	2 教師 14.9	2 教師 8.8
3 看護師 9.1	3 建築士・建築関連 10.5	3 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 7.2
4 建築士・建築関連 6.1	4 医師・歯科医師・獣医 7.5	4 公務員 6.2
5 医師・歯科医師・獣医 5.9	5 技術者・研究者 7.3	5 医師・歯科医師・獣医 4.8
6 技術者・研究者 4.3	6 製造業（自動車・造船など） 6.6	6 放射線技師・臨床検査技師 3.8
7 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 4.2	7 エンジニア・プログラマー・IT関連 5.3	7 薬剤師 3.5
8 薬剤師 3.0	8 薬剤師 2.6	8 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 3.3
9 製造業（自動車・造船など） 2.9	9 看護師 2.2	9 美容師・ヘアメイクアーティスト・美容関連 2.8
10 放射線技師・臨床検査技師 2.7	9 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連 2.2	9 建築士・建築関連 2.8
10 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 2.7	9 会社員 2.2	
10 エンジニア・プログラマー・IT関連 2.7		

その職業に就きたい理由：

- 教師： 「先生達が教えているのが楽しそう。生徒とふれあうのが好き。」（女子）
「あこがれの先生のように子供と成長していける職業だから魅力を感じる。」（女子）
- 公務員： 「仕事が安定するし、休みがちゃんとある。給料も高い。安定している。」（女子）
「安定した収入を得られる。就きたいと小さい頃から思っていたから。」（男子）
- 看護師： 「多くの人と関わることが出来、安定した職業だと思うから。」（女子）
「幼い頃、一度入院した時に色々なお話をしてくれた、看護師さんにあこがれたから。また、医療関係の職に興味があるから。」（女子）

【保護者】就いてほしい職業(自由記入をコーディング/複数回答/就いてほしい職業があると回答したうち、有効記入があったもの)

全体 (n= 182)	子どもの性別：男子 (n= 84)	子どもの性別：女子 (n= 95)
1 公務員 37.4	1 公務員 50.0	1 公務員 27.4
2 看護師 11.5	2 教師 9.5	2 看護師 21.1
3 教師 8.2	3 医師・歯科医師・獣医 6.0	3 医療事務・医療関連 8.4
4 医療事務・医療関連 7.1	4 薬剤師 4.8	4 教師 7.4
5 医師・歯科医師・獣医 5.5	4 医療事務・医療関連 4.8	5 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 5.3
6 薬剤師 4.4	4 技術者・研究者 4.8	5 放射線技師・臨床検査技師 5.3
7 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 3.3	7 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 2.4	7 医師・歯科医師・獣医 4.2
7 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 3.3	7 製造業（自動車・造船など） 2.4	7 薬剤師 4.2
9 放射線技師・臨床検査技師 2.7	7 建築士・建築関連 2.4	7 管理栄養士・栄養士 4.2
9 技術者・研究者 2.7	7 会社員 2.4	7 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 4.2
9 会社員 2.7		

その職業に就いてほしい理由：

- 公務員： 「安定した収入が得られること。福利厚生などが充実している。」
「安定感。女の子なので、将来、結婚、出産等があっても仕事を続ける事ができそう。」
- 看護師： 「結婚・出産で仕事を離れてもまた復帰できる。全国どこにでも病院はあり、大きい病院、小さい病院、夜勤など選択肢もある。歳をとっても長く働ける。」
「高齢化社会で需要がある。資格があれば転職に困らない。やりがいがありそう。」
- 教師： 「A I では変わらない。これから人間性が重要な職であるから。」

※ 「公務員」は警察・消防・自衛官を含む
※ 「上位10位まで」を掲載

九州女子大学

令和5（2023）年度新設3学科
家政学部 「生活デザイン学科（仮称）」
人間科学部 「児童・幼児教育学科（仮称）」
人間科学部 「心理・文化学科（仮称）」

学生確保の見通し調査
(設置構想についての高校生アンケート調査)

報告書

令和4（2022）年2月

株式会社 高等教育総合研究所

目次

1. 設置構想についての高校生アンケート調査の概要	2
2. 質問項目の集計結果	3
3. 集計結果のポイント	6
学生確保の見通し調査結果 まとめ	11
添 付 資 料	12

1. 設置構想についての高校生アンケート調査の概要

調査目的	九州女子大学が令和5（2023）年度4月に設置構想中の以下の3学科について、学生確保の見通しについて検証するために高校生アンケート調査を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 家政学部 「生活デザイン学科（仮称）」（入学定員：60名） ■ 人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」（入学定員：100名） ■ 人間科学部「心理・文化学科（仮称）」（入学定員：90名）
調査時期	令和3（2021）年11月～令和4（2022）年1月
調査対象	令和3年度現在の高校2年生女子（新学科設置時に大学進学時期を迎える者）
調査内容	選択式の7問。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 回答者の基本情報（性別、居住地、希望進路、興味のある学問分野） ■ 設置構想中の新学科への受験・入学意向、もしくは「受験しない」を選択した理由
有効回答件数	3,650件（回収件数：5,714件） ※問1で「女性」と回答した者のみを集計対象とした。 ※実施校の県別内訳は下表の通り

◆実施校の県別内訳表

都道府県	公立	私立	小計
山口県	3	1	4
福岡県	28	8	36
佐賀県	1	1	2
長崎県	0	1	1
熊本県	4	1	5
大分県	3	3	6
宮崎県	0	1	1
鹿児島県	1	1	2
沖縄県	1	0	1
総計	41	17	58

2. 質問項目の集計結果

※本調査結果は、問1で「女性」と回答した者のみ取り扱っている。そのため、問1は掲載していない。

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも100.0%とは一致しない。

調査名称	回収総件数
九州女子大学 令和5(2023)年度新設3学科(家政学部「生活デザイン学科(仮称)」人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」人間科学部「心理・文化学科(仮称)」設置構想についての高校生アンケート調査	3,650件

問2 あなたがお住まいの県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	福岡県	2,554	70.0%
2	佐賀県	142	3.9%
3	熊本県	145	4.0%
4	大分県	283	7.8%
5	宮崎県	36	1.0%
6	鹿児島県	183	5.0%
7	沖縄県	45	1.2%
8	山口県	241	6.6%
9	その他	18	0.5%
	無回答	3	0.1%
合計		3,650	100.0%

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	進学	3,135	85.9%
2	就職	262	7.2%
3	現時点では未定	248	6.8%
	無回答	5	0.1%
合計		3,650	100.0%

問4 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)

※複数回答のため、回答数は延べ

※回答率は、回答者 3,650 人のうち、各項目を挙げた者の割合

	選択項目	回答数	回答率
1	人文科学(心理学、文学、史学、哲学、外国語学など)	1,121	30.7%
2	家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)	634	17.4%
3	教育学・保育学	972	26.6%
4	社会科学(法学・政治学、経営学、経済学、社会学など)	622	17.0%
5	理学・工学(物理学、化学、生物学、情報学、機械工学、建築学など)	253	6.9%
6	農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)	178	4.9%
7	医学・歯学・薬学	509	13.9%
8	保健衛生学(看護学、リハビリテーション医学など)	898	24.6%
9	芸術学(音楽、デザイン、美術など)	848	23.2%
10	その他	535	14.7%

問5 あなたは九州女子大学が令和5(2023)年度に設置予定の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

	選択項目	回答数	構成比
1	家政学部「生活デザイン学科(仮称)」を受験したい	153	4.2%
2	人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」を受験したい	236	6.5%
3	人間科学部「心理・文化学科(仮称)」を受験したい	211	5.8%
4	いずれの学科も受験したいと思わない	2,976	81.5%
	無回答	74	2.0%
合計		3,650	100.0%

問6は、問5で「受験したい」と回答した 600 人が回答対象である。

問6 あなたは問5で「受験したい」とした九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

	選択項目	回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	283	47.2%
2	合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい	310	51.7%
	無回答	7	1.2%
合計		600	100.0%

問7は、問5で「受験しない」と回答した2,976人が回答対象である。

問7 あなたが九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」を「受験しない」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

※複数回答のため、回答数は延べ

※回答率は、回答対象者2,976人のうち、各項目を挙げた者の割合

	選択項目	回答数	回答率
1	九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	83	2.8%
2	九州女子大学の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	75	2.5%
3	九州女子大学の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	79	2.7%
4	興味・関心のある学科ではないから	1,103	37.1%
5	国公立大学への進学を希望しているから	654	22.0%
6	他の私立大学への進学を希望しているから	566	19.0%
7	短期大学・専門学校への進学を希望しているから	746	25.1%
8	就職を希望しているから	209	7.0%
9	進路は未定だから	292	9.8%
10	通学に時間がかかりそうだから	158	5.3%
11	学費が高いから	184	6.2%
12	その他	59	2.0%

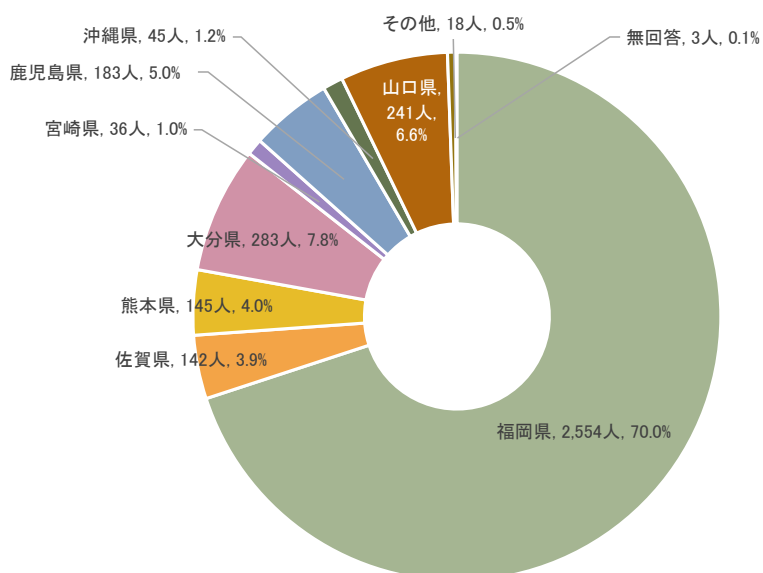
3. 集計結果のポイント

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

① 回答者の基本情報

本アンケート調査の回答者（3,650人）は、全て令和3（2021）年度における高校2年生かつ女性である（事前に性別無回答、または「男性」とした回答アンケートはすべて除外）。回答者の居住地については全体の70.0%にあたる2,554人が「福岡県」、次いで大分県を含む九州各県、山口県などであった。福岡県北九州市にキャンパスを置く九州女子大学は福岡県を始めとする九州地方ならびに西で隣接する山口県を学生確保の基盤としており、本アンケートの対象者として適切であるといえる。（グラフ1）

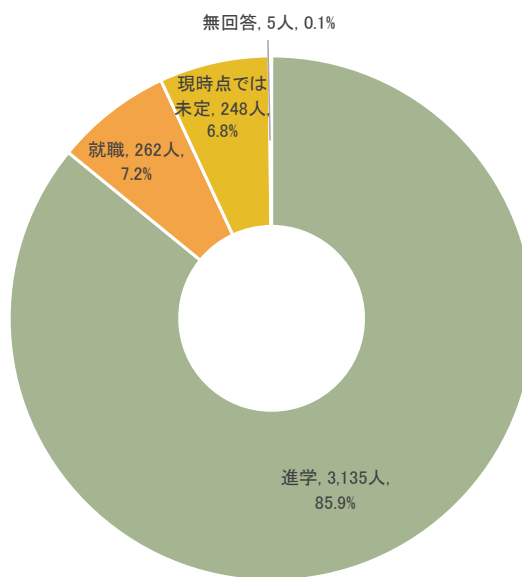
グラフ1



② 8割以上の回答者が、高校卒業後に「進学」を希望

現時点での高校卒業後の希望する進路先について質問したところ、回答者の85.9%にあたる3,135人が「進学」と回答した。次いで、「就職」が262人(7.2%)、「現時点では未定」が248人(6.8%)の順であった。(グラフ2)

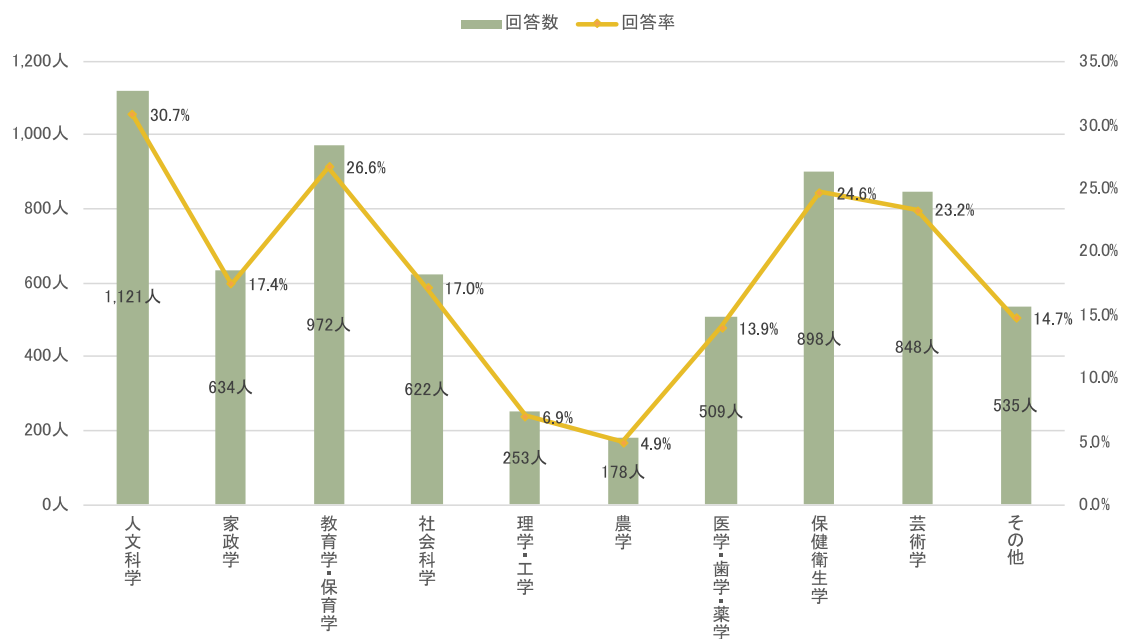
グラフ2



③ 「人文科学」に興味を持つ者が最多、「教育学・保育学」が2番目、「家政学」が5番目

関心のある学問分野について質問したところ、「生活デザイン学科（仮称）」に関連する「家政学」は634人（全体の17.4%）、「児童・幼児教育学科（仮称）」に関連する「教育学・保育学」は972人（26.6%）、「心理・文化学科（仮称）」に関連する「人文科学」は1,121人（30.7%）がそれぞれ回答した。「人文科学」に興味・関心を持つ回答者が最も多く、次いで「教育学・保育学」という順で、「家政学」も全体では5番目に多かった。

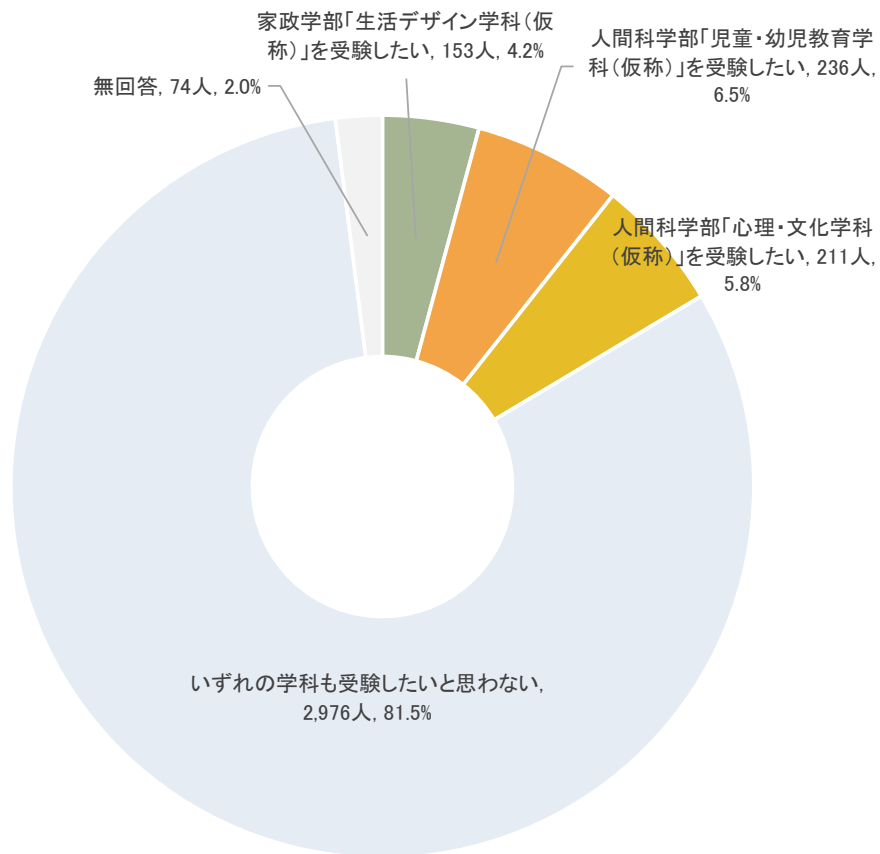
グラフ3



④ 新設3学科の受験意向について

令和5(2023)年度に設置予定の新設3学科の受験意向について質問したところ、「受験したい」と受験意向を示したのは、家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が153人(全体の4.2%)、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が236人(6.5%)、また、心理・文化学科(仮称)が211人(5.8%)であった。

グラフ4



⑤ 新設3学科への入学意向について

九州女子大学が令和5（2023）年度に設置予定の3学科のいずれかに対し、問5で「受験したい」と回答した者に問6で入学意向について質問した。以下、問5と問6のクロス集計結果である。

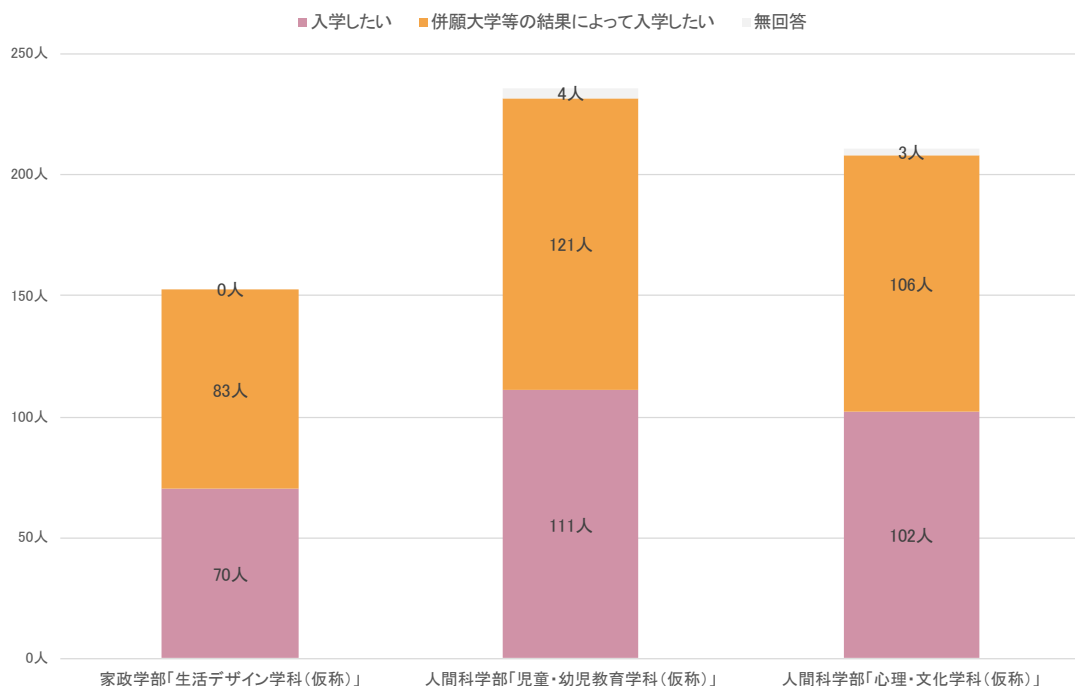
家政学部「生活デザイン学科（仮称）」（入学定員60名）を「合格した場合、入学したい」と回答したのが70人、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答したのが83人であった。

人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」（入学定員100名）を「合格した場合、入学したい」と回答したのが111人、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答したのが121人であった。

人間科学部「心理・文化学科（仮称）」（入学定員90名）を「合格した場合、入学したい」と回答したのが102人、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答したのが106人であった。

以上、各学科をそれぞれ「受験したい」とした上で「合格した場合、入学したい」とした高校生のみで入学定員を上回り、「～併願大学等の結果によって入学したい」を加えると入学定員の2倍以上の水準であった。

グラフ5



学生確保の見通し調査結果 まとめ

九州女子大学が令和 5（2023）年度に設置予定の家政学部「生活デザイン学科（仮称）」人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」、人間科学部「心理・文化学科（仮称）」の学生確保の見通しについて検証を行うため、九州女子大学が学生確保の基盤する福岡県をはじめとする九州地方ならびに山口県の高校にアンケート調査実施を依頼した。結果、58 校からご協力をいただき、2 年生女子（令和 5 年度に大学進学時期を迎える者）の合計 3,650 人からアンケート調査の回答を得た。

新設 3 学科の概要を示した上で受験・入学・についての回答を求めた結果、問 5 で「受験したい」かつ問 6 で「合格した場合、入学したい」と回答したのは、家政学部「生活デザイン学科（仮称）」（入学定員 60 名予定）が 70 人、人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」（入学定員 100 名予定）が 111 人、人間科学部「心理・文化学科（仮称）」（入学定員 90 名予定）が 102 人であった。「合格した場合、入学したい」と強い入学意向を示した者だけでも、各学科が予定する入学定員を上回る結果となった。さらに「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」を含めると、本アンケート調査の結果のみでも新設 3 学科すべてで入学定員の 2 倍以上の受験者が見込める結果が得られた。

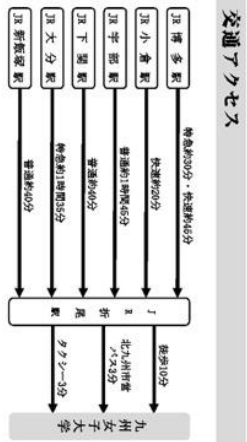
以上を踏まえると、九州女子大学が令和 5 年度に設置構想中である家政学部「生活デザイン学科（仮称）」、人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」、人間科学部「心理・文化学科（仮称）」はいずれもその学生確保について入学定員充足の見通しがあると推察される。

以上

添 付 資 料

- 資料1 九州女子大学 令和5年度新設3学科概要
- 資料2 設置構想についての高校生アンケート調査用紙

資料1 九州女子大学 令和5年度新設3学科概要



学費 (他大学含む)

大学名	学部名	学科名	所在地	入学金	授業料、施設費等	初年度合計
九州女子大学	家政学部	生活デザイン学科(仮称)	北九州府八幡宮区	280,000	904,000	1,184,000
		人間生活学科	北九州府八幡宮区			
		栄養学科	北九州府八幡宮区			
近畿女子大学	健康生活学部	生活デザイン学科	姫路市	250,000	967,000	1,217,000
		人間科学部	姫路市			
		生活デザイン学科	兵庫県芦屋市	90,000	1,140,000	1,230,000
九州女子大学	人間科学部	児童福祉教育学科(仮称)	北九州府八幡宮区	250,000	940,000	1,200,000
		児童福祉教育学科	福岡市南区	250,000	1,050,000	1,300,000
		児童福祉教育学科	福岡市南区	210,000	975,000	1,185,000
九州女子大学	人間科学部	児童福祉教育学科	福岡市南区	250,000	940,000	1,200,000
		児童福祉教育学科	福岡市南区	250,000	940,000	1,200,000
		児童福祉教育学科	福岡市南区	250,000	940,000	1,200,000

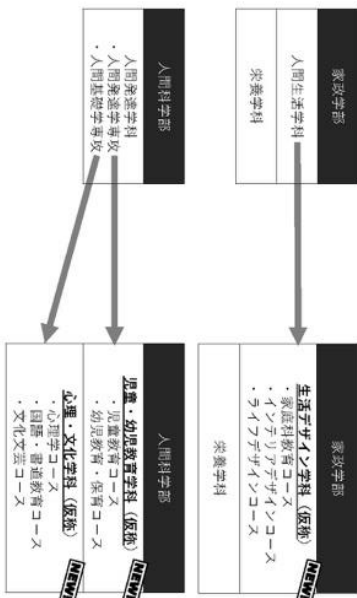
- ◆ 九州女子大学が設置構想中の各学科の学費は予定のものです。
- ◆ 他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報です(令和3(2021)年9月10日時点)。
- ◆ いずれの大学の学費も諸学費(委託課収受費)を含みません。

上記は設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

令和5(2023)年4月、
九州女子大学
が生まれ変わります。

令和3(2021)年度現在

令和5(2023)年度予定



この「概要」をご覧の上、
別紙・高校生アンケート調査にご回答ください。

上記は設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

令和 5 (2023) 年 4 月、九州女子大学に新たに開設予定の学科

家政学部

人間科学部

生活デザイン学科

資格・
設置構想中

入学定員60人(収容定員30人)/修業年限:4年/学位:学士(家政学)

養成する人材

生活者の視点で家庭や学校、地域社会の課題を解決する力を養い、学校教育および衣食住の各業界等で活躍できる人材を育成します。

学科の特色

- 専門教育科目による学内外での活動を通じて、社会で通用する豊かなコミュニケーション能力を養います。
- 衣生活や生活経路等、大学で学ぶ知識や技術を活かすことができる地域活動を行います。
- 将来の進路に応じた資格取得を、専門知識の豊富な教員による丁寧なサポートを通して目指します。
- さらに2年次以降は目的に応じた3つのコースに分かれ、専門性を高めることができます。

家庭科教育コース	インテリアデザインコース	ライフデザインコース
1年次から教員採用試験合格を目指す。新卒定職での教育現場や調理師専門学校等への中身の要請が目ざされ、層の厚い実践力を身に付けてもらう。また、専攻科員として求められる専門知識を身に付けてもらう。卒業後、ファッションデザイナーやインテリアコーディネーターとして活躍する。また、専攻科員として求められる専門知識を身に付けてもらう。卒業後、ファッションデザイナーやインテリアコーディネーターとして活躍する。	在学生中のインテリアコーディネーターを目指す。新卒定職での教育現場や調理師専門学校等への中身の要請が目ざされ、層の厚い実践力を身に付けてもらう。また、専攻科員として求められる専門知識を身に付けてもらう。卒業後、ファッションデザイナーやインテリアコーディネーターとして活躍する。	建築・インテリア業界の現場で活躍する。新卒定職での教育現場や調理師専門学校等への中身の要請が目ざされ、層の厚い実践力を身に付けてもらう。また、専攻科員として求められる専門知識を身に付けてもらう。卒業後、ファッションデザイナーやインテリアコーディネーターとして活躍する。

想定される進路

- 教習現場で求められる実践力をもち、家庭科教員(公立中学校・高等学校、私立中学校・高等学校、専攻科員等)になる。
- 女性目線を活かした住の専門家(スタイリッシュ)になる。
- 設計事務所、インテリア生産、インテリア販売、インテリアデザインなどの職種で活躍する。
- 暮らしやデザインに関わりのあるまちづくりに貢献する仕事(公務員、住宅展示場、商品企画、商品開発、インテリアデザイン)
- 地域経済の活性化やよりよい人生の実現に寄与する仕事(旅行等の地産地消推進、生命保険会社、情報通信企業、サービス業など)
- 豊かな食を提供できる企業や時代のニーズに応えたコングレゲーションの提案ができる企業(食品製造企業、カフェやパン屋のオーナー、アパレル販売企業など)

児童・幼児教育学科

資格・
設置構想中

入学定員100人(収容定員40人)/修業年限:4年/学位:学士(教育学)

養成する人材

子どもの教育および発達支援の諸問題に関する専門的知識と技術の教授を通じて地域社会に貢献できる専門職業人材を育成します。

学科の特色

- 少人数制によるキャリア支援教育 総合教養教育 教育学・保育学の専門教育 を通じて質の高い学士力が、多様化し複雑化する現代社会をリードできる力を身につけます。
- 児童・幼児教育、保育、特別支援教育に関する専門的知識 地域におけるフィールドワーク プラクティスをしながら、時代のニーズに応じた教育・保育の方を学び、地域の発展に貢献できる実践力を身につけます。
- 小学校教育 特別支援学校教育 幼稚園教育 保育士を組み合わせることで取得することによって得意分野をもった専門性の高い人材の育成を、少人数制の徹底サポートを通して行います。
- さらに2年次以降は目的に応じた2つのコースに分かれ、専門性を高めることができます。

児童教育コース	幼児教育・保育コース
児童の発達に関する基礎知識と実践力を身に付け、公立小・中学校や児童福祉施設などで児童の発達支援を行うことができる。また、児童福祉施設などで児童の発達支援を行うことができる。	保育士資格を取得し、幼稚園や保育園で保育士として働く。また、保育士として働くだけでなく、児童福祉施設などで児童の発達支援を行うことができる。

想定される進路

- 教習員(公立小学校・中学校、幼稚園教諭)
- 保育・福祉職(保育士、児童福祉施設)
- 行政職や公共団体で地域サービスやまちづくりに貢献(公務員、自治体職員、市民活動)
- 地域社会の発展を担う企業(児童福祉施設、保育園、児童館など)
- 研究・調査などによる地域貢献や学問としての知見を深めるため大学院に進学

心理・文化学科

資格・
設置構想中

入学定員90人(収容定員30人)/修業年限:4年/学位:学士(文学)

養成する人材

現代社会の課題に対応するヒューマンケア、教育、文化の新たな共創と発信を通じて社会に貢献できる幅広い職業人材を育成します。

学科の特色

- 現代を取り巻く人的環境・特性を理解し、人を支え、社会を変える専門的能力の獲得(心理学・教育学/科目履修教育/心理学、言語、書道、文化史の専門教育)
- ヒューマンケア、教育、企業・組織に従事する者に必要な実践的応用力の獲得(専門的知識の履修と実習/現場での体験、実習/プロジェクト/インターンシップ)
- 少人数制の徹底サポートによる複数の免許・資格を合わせもつ人材の育成(公認心理師/児童福祉施設/児童福祉施設/児童福祉施設/児童福祉施設/児童福祉施設/児童福祉施設)
- 3つのコースと女性育成像(2年次以降は目的に応じた3つのコースに分かれ、専門性を高め、専門性を高め、専門性を高め)

心理学コース	言語・書道教育コース	文化芸術コース
多岐なフィールドで活躍する専門的知識と実践力を身に付け、児童福祉施設や教育現場で児童の発達支援を行うことができる。また、児童福祉施設などで児童の発達支援を行うことができる。	豊かな言語力を武器とする児童福祉施設や教育現場で児童の発達支援を行うことができる。また、児童福祉施設などで児童の発達支援を行うことができる。	伝統的な文化芸術からアートまで、多岐な文化芸術分野で活躍する専門的知識と実践力を身に付け、児童福祉施設や教育現場で児童の発達支援を行うことができる。また、児童福祉施設などで児童の発達支援を行うことができる。

想定される進路

- 対人援助職(児童福祉施設/児童福祉施設/児童福祉施設/児童福祉施設)
- 教育職(中学校・高等学校の教諭、特別支援学校の教諭、特別支援学校の教諭)
- 公務員や一般企業全般(行政・文化機関、出版会社などのコンテンツ産業、一般企業での企画など)
- 人間の心理と文化に関する学問を深め、プロジェクトやインターンシップを通じて大学院に進学

2 上記は設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

資料2 設置構想についての高校生アンケート調査用紙



九州女子大学

家政学部「生活デザイン学科(仮称・設置構想中)」
人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称・設置構想中)」
人間科学部「心理・文化学科(仮称・設置構想中)」

設置構想についての高校生アンケート調査 (対象：2021年度現在、高校2年生の皆さん)

九州女子大学は令和5(2023)年度に学部学科の改組を行い、家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部に「児童・幼児教育学科(仮称)」 「心理・文化学科(仮称)」の設置を構想中です。九州女子大学ではこのアンケート調査を通して、令和5(2023)年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからご意見をお聞きし、設置構想の参考とさせていただきますと考えています。ご回答いただいた皆さんから得られた情報は九州女子大学の学部学科構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は九州女子大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

記入例を参考にご回答ください。



問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまるものにマーク)

女性 男性

問2 あなたがお住まいの県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県 山口県 その他

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク)

進学 就職 現時点では未定

問4 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)

人文科学(心理学、文学、史学、哲学、外国語学など) 家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)
 教育学・保育学 社会科学(法学・政治学、経営学、経済学、社会学など)
 理学・工学(物理学、化学、生物学、情報学、機械工学、建築学など)
 農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など) 医学・歯学・薬学
 保健衛生学(看護学、リハビリテーション医学など) 芸術学(音楽、デザイン、美術など)
 その他





問5以降は別紙、九州女子大学 令和5(2023)年度の学部・学科の概要をご覧の上で、女子の方のみお答えください。

問5 あなたは九州女子大学が令和5(2023)年度に設置予定の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 家政学部「生活デザイン学科(仮称)」を受験したい ⇒ 以下の問6にお答えください。
- 人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」を受験したい ⇒ 以下の問6にお答えください。
- 人間科学部「心理・文化学科(仮称)」を受験したい ⇒ 以下の問6にお答えください。
- いずれの学科も受験したいと思わない ⇒ 以下の問7にお答えください。

問5で「受験したい」と回答した方は、以下の問6にお答えください。

問6 あなたは問5で「受験したい」とした九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 合格した場合、入学したい
- 合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい

問5で「受験しない」と回答した方は、以下の問9にお答えください。

問7 あなたが九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」を「受験しない」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 九州女子大学の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 九州女子大学の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 興味・関心のある学科ではないから
- 国公立大学への進学を希望しているから
- 他の私立大学への進学を希望しているから
- 短期大学・専門学校への進学を希望しているから
- 就職を希望しているから
- 進路は未定だから
- 通学に時間がかかりそうだから
- 学費が高いから
- その他

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。



九州女子大学
人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」

人材需要の見通し調査
(設置構想についての人材需要アンケート調査)
報告書

令和 4（2022）年 2 月

株式会社 高等教育総合研究所

目次

1. 設置構想についての人材需要アンケート調査の概要	2
2. 質問項目の集計結果	3
① 企業・団体を対象とした人材需要アンケート調査	3
② 幼稚園・保育所等を対象とした人材需要アンケート調査	11
3. 集計結果のポイント	24
① 企業・団体を対象とした人材需要アンケート調査	24
② 幼稚園・保育所等を対象とした人材需要アンケート調査	28
人材需要の見通し調査結果 まとめ	32
添 付 資 料	33

1. 設置構想についての人材需要アンケート調査の概要

調査目的	九州女子大学が令和5（2023）年度4月に設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」（入学定員：100名）について、人材需要の見通しについて検証するために①企業・団体ならびに②幼稚園・保育所等を対象とした人材需要アンケート調査を行った。
調査時期	令和4（2022）年1月～2月
調査対象	<p>①九州女子大学 人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」を含む新設3学科卒業生の採用が見込まれる以下の企業・団体等 合計1,049箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 福岡県が本社または福岡県に拠点をもつ企業 643箇所 ■ 福岡県内の社会福祉協議会 76箇所 ■ 九州地方の地方自治体（県市長、町村役場） 282箇所 ■ 九州地方の主要美術館・博物館 48箇所 <p>②九州女子大学 人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」卒業生の採用が見込まれる以下の幼稚園・保育所等 合計586箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 福岡県内の幼稚園 386箇所 ■ 北九州市内の保育所 200箇所（小規模園を含む） <p>※上記には認定こども園を含む</p>
調査内容	<p>① 全13問。12問が選択式、1問が記述。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 回答企業・団体の基本情報（主業種、従業員・職員数、所在地） ■ 設置構想中の新学科の社会的ニーズ、卒業生の採用意向 ■ 設置構想中の新学科に期待する点、ご要望等 <p>② 全7問。6問が選択式、1問が記述。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 回答施設の基本情報（施設種類、所在地、受入れ可能な乳幼児の定員）設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」の社会的ニーズ、卒業生の採用意向 ■ 設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」に期待する点、ご要望等
有効回答件数	<p>① 280件（回収率26.0%）</p> <p>② 259件（回収率44.2%）</p>

2. 質問項目の集計結果

① 企業・団体を対象とした人材需要アンケート調査

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

調査名称	回収総件数
九州女子大学 令和5（2023）年度新設3学科（家政学部「生活デザイン学科（仮称）」 人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」人間科学部「心理・文化学科（仮称）」 設置構 想についての人材需要アンケート調査	280件

問1 貴社・貴機関の主業種として、最もあてはまるものをお答えください。（最もあてはまるもの1つにマーク）

選択項目	回答数	構成比
1 農業、林業、漁業、鉱業	0	0.0%
2 建設業	15	5.4%
3 製造業	2	0.7%
4 電気、ガス、熱供給、水道業	1	0.4%
5 通信業	2	0.7%
6 放送業、情報サービス業	4	1.4%
7 インターネット付随サービス業	3	1.1%
8 映像・音声・文字情報制作業	0	0.0%
9 運輸業、郵便業	1	0.4%
10 卸売業	5	1.8%
11 小売業	14	5.0%
12 金融業・保険業	9	3.2%
13 不動産業、物品賃貸業	3	1.1%
14 学術研究、専門・技術サービス業	12	4.3%
15 宿泊業、飲食サービス業	4	1.4%
16 生活関連サービス業、娯楽業	0	0.0%
17 教育、学習支援業	10	3.6%
18 医療、福祉	24	8.6%
19 複合サービス事業	0	0.0%
20 その他のサービス	18	6.4%
21 公務	147	52.5%
22 その他	5	1.8%
無回答	1	0.4%
合計	280	100.0%

問2 貴社・貴機関の従業員・職員数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	～99 人	82	29.3%
2	100～299 人	86	30.7%
3	300～499 人	42	15.0%
4	500～999 人	40	14.3%
5	1,000～2,999 人	16	5.7%
6	3,000～9,999 人	10	3.6%
7	10,000 人～	3	1.1%
	無回答	1	0.4%
合計		280	100.0%

問3 貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	福岡県	144	51.4%
2	佐賀県	6	2.1%
3	長崎県	15	5.4%
4	熊本県	26	9.3%
5	大分県	12	4.3%
6	宮崎県	12	4.3%
7	鹿児島県	32	11.4%
8	沖縄県	20	7.1%
9	その他	13	4.6%
	無回答	0	0.0%
合計		280	100.0%

家政学部「生活デザイン学科(仮称)」について

問4

九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	9	3.2%
2	ニーズはある程度高い	131	46.8%
3	ニーズはあまりない	35	12.5%
4	ニーズは全くない	9	3.2%
5	わからない	95	33.9%
	無回答	1	0.4%
合計		280	100.0%

問5

九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	採用したい	45	16.1%
2	採用しない	33	11.8%
3	わからない	200	71.4%
	無回答	2	0.7%
合計		280	100.0%

問6は、問5で「採用したい」と回答した 45 件が回答対象である。

問6

九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	1名	21	46.7%
2	2名	11	24.4%
3	3名	7	15.6%
4	4名	0	0.0%
5	5名	2	4.4%
6	6名以上	2	4.4%
	無回答	2	4.4%
合計		45	100.0%

人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」について

問7 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	66	23.6%
2	ニーズはある程度高い	159	56.8%
3	ニーズはあまりない	13	4.6%
4	ニーズは全くない	7	2.5%
5	わからない	34	12.1%
	無回答	1	0.4%
合計		280	100.0%

問8 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	採用したい	48	17.1%
2	採用しない	34	12.1%
3	わからない	196	70.0%
	無回答	2	0.7%
合計		280	100.0%

問9は、問8で「採用したい」と回答した 48 件が回答対象である。

問9 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	1名	35	72.9%
2	2名	5	10.4%
3	3名	3	6.3%
4	4名	0	0.0%
5	5名	1	2.1%
6	6名以上	1	2.1%
	無回答	3	6.3%
合計		48	100.0%

人間科学部「心理・文化学科(仮称)」について

問10

九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	23	8.2%
2	ニーズはある程度高い	153	54.6%
3	ニーズはあまりない	26	9.3%
4	ニーズは全くない	5	1.8%
5	わからない	72	25.7%
	無回答	1	0.4%
合計		280	100.0%

問11

九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	採用したい	35	12.5%
2	採用しない	30	10.7%
3	わからない	212	75.7%
	無回答	3	1.1%
合計		280	100.0%

問12は、問11で「採用したい」と回答した35件が回答対象である。

問12

九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	人数合計
1	1名	28	28人
2	2名	2	4人
3	3名	2	6人
4	4名	0	0人
5	5名	0	0人
6	6名以上	1	6人
	無回答	2	0人
合計		35	44人

問13

九州女子大学が設置構想中の新学部・学科について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由に記入ください。特定学部・学科についてコメントいただく場合、お手数ですが最初に「〇〇学部について」「〇〇学科について」とご記入いただければ幸いです。

※原文ママ

業種【問1】	記述内容
建設業	学部学科を問わず幅広い採用を行っております。当社は建設業で女子学生にはなかなか人気のない職種ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。
建設業	大変申し訳ありませんが、アンケート先の選定として適合していないかもしれません
電気、ガス、熱供給、水道業	「心理・文化学科について」人でないと成り立たない仕事も多く、専門的な知識を持った人材は今後もニーズが高いと考えられます。
小売業	・それぞれ専門分野に特化し、より求められる人材の育成につながると感じました。 ・当社の採用において新設される3学科の方が該当する職種が「学部・学科不問」のものになりますので、ご縁がありましたらぜひ採用させていただきたく存じますが、特別、この学科でないと、ということはないため、採用可能人数はそれぞれ「1名」とマークさせていただきます。
小売業	貴校は優秀な学生さんが多い印象が強いです。今回調査対象の学科に限らず、情報とご縁がないため、このような回答しかできませんでした。採用を目指した活動の一環であれば、一年をかけて情報交換や学校訪問など企画いただくとありがたいと存じます。コロナ禍で実現が困難かと思いますが、ご検討下さい。
金融業・保険業	今後ともよろしく願います。 既卒のOGの方について、就職を斡旋するようなことがあれば情報をいただければと感じます。
学術研究、専門・技術サービス業	生活デザイン学科における授業内容について、建築基礎知識(建築用語)についての内容を増加していただきたい。
学術研究、専門・技術サービス業	弊社業務とはあまり関連の薄い学科であり、なんともコメントの仕様がありませんが、学生の時に学んだ専門知識以外の職に就くこともよくあると思います。社会人になっても学ぶ姿勢は大切であり、型にはまらずチャレンジする気持ちも必要なのかと考えます。 専門知識がないと就けない職もあると思いますので貴校のご活躍をお祈り致しております。
学術研究、専門・技術サービス業	理数系の知識、OAツール(オフィスソフト、CAD)のスキル、IT、セキュリティのスキルのある人材(コミュニケーション、論理思考がベース)を育成いただければと思います。
宿泊業、飲食サービス業	内容はともかく、学科名から学生が何を学んだのか推測できた方が良いでしょう。 「生活デザイン科」とは、どんなことを学ぶのかよくわからない。
教育、学習支援業	人間科学部「児童・幼児教育学部(仮称)」について 学科の特色の中で、専門的知識、地域におけるフィールドワーク、アクティブラーニング等を通して、より社会人としての実践力や活用能力を高めるために、教育施設へのボランティア経験を重視していただき、必須にしてほしい。

教育、学習支援業	当財団(青少年科学館)は、例年11月から12月にかけて次年度の嘱託員募集要項を作成し、各大学等に送付しております。新学部学科の学生の皆様にもご案内していただければ幸いです。
その他のサービス	まだ小規模組織のため、新卒採用は考えておりません。
その他のサービス	児童・幼児教育学科について、小学校教師不足の解決の一助となると思われる。期待しております。
その他のサービス	女性のキャリアアップを視野に入れた教育
その他のサービス	全学部学科で、学んだ、身につけたことを「どう活かせるか」を考える時間を多く持っていただきたい。想定される進路以外の可能性もあると思います。
その他のサービス	弊社は設計事務所ですが、かつて専門学科ではない女性を採用しましたが、適職だったのか優秀な人材として、会社の糧になっております。学科に限定されたものではなく、理論的に考えたり、合理的な思考ができるかと能力が発揮されます。弊社は、意匠設計ではないのでデザインの追求はしていない事務所です。実績はあるので、興味のある方を採用しています。今後、言われたことをするのではなく、何事にも興味を持ち、柔軟に物事を考えることが必要になると思います。
その他のサービス	弊社は保育園を運営しているため、保育士の採用は考えられます。
公務	ここ数年の採用者において、周囲の人とのコミュニケーション能力が低い、苦手と思われる者が多い傾向にある。学力をつけることはとても大切だと思うが、社会人になってからの人としての基礎、常識を身に付けることが重要であるので、そのような点を期待します。
公務	一般事務職としての採用ではあると思いますが、公務現場において心理カウンセラーや、ヒューマンケアは職員に対しても住民に対してもニーズが高まってくると考えます。(心理・文化学科)
公務	公認心理士が増えることを期待します。
公務	採用については、公募し、競争試験を行うことから「採用したいと思うか」の間には「わからない」と回答しています。
公務	人間科学部について 職員採用試験において、児童、幼児教育や心理学分野の有資格者のみを対象とする試験区分は、現在設けておりません。しかしながら、在職中に公認心理士や社会福祉士の資格を自ら取得しようとする職員もおり、そういった資格を予め有している人材は幼児教育や福祉を所掌する部署を中心に、即戦力として活躍できる可能性があるのではないかと思います。 その意味で、上記のような資格を在学中に取得し高い専門性を持つ人材が育成されることを期待します。
公務	全学部について 地方自治体においても資格免許職の採用が困難な状況にある。 専門職の育成に期待したい。

<p>その他</p>	<p>生活デザイン学科について</p> <p>インテリアデザインコースについては、大川市の基幹産業が木工業(家具製造、建具製造、その木工関連等)になりますので、ニーズはあると思われませんが、高いかどうかはわかりません。</p> <p>児童・幼児教育学科について</p> <p>社会情勢的にニーズは高くなるのではないかと感じますが、国の方向性次第だと感じています。当所や当市(地域内)では、未だニーズは低いと考えます。とても重要な分野だと思います。</p> <p>心理・文化学科については、児童、幼児学科と同じ意見です。</p>
------------	---

② 幼稚園・保育所等を対象とした人材需要アンケート調査

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

調査名称	回収総件数
九州女子大学「人間科学部 児童・幼児教育学科（仮称）」設置構想についての 人材需要アンケート調査	259 件

問1 貴園・貴所の施設種類としてあてはまるものをお答えください。（最もあてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	幼稚園	137	52.9%
2	保育園・保育所	89	34.4%
3	認定こども園	28	10.8%
4	その他	5	1.9%
	無回答	0	0.0%
合計		259	100.0%

問2 貴園・貴所の福岡県内における所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	合計
1	北九州地区	152	58.7%
2	福岡地区	64	24.7%
3	筑後地区	26	10.0%
4	筑豊地区	15	5.8%
	無回答	2	0.8%
合計		259	100.0%

問3 貴園・貴所における年齢別の定員数をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

【0歳児】

選択項目		回答数	構成比
1	1～5人	26	10.0%
2	6～10人	47	18.1%
3	11～15人	21	8.1%
4	16～20人	10	3.9%
5	21人以上	1	0.4%
6	受入れしていない	109	42.1%
	無回答	45	17.4%
合計		259	100.0%

【1歳児】

選択項目		回答数	構成比
1	1～5人	11	4.2%
2	6～10人	46	17.8%
3	11～15人	38	14.7%
4	16～20人	23	8.9%
5	21人以上	12	4.6%
6	受入れしていない	89	34.4%
	無回答	40	15.4%
合計		259	100.0%

【2歳児】

選択項目		回答数	構成比
1	1～5人	8	3.1%
2	6～10人	42	16.2%
3	11～15人	49	18.9%
4	16～20人	54	20.8%
5	21人以上	76	29.3%
6	受入れしていない	12	4.6%
	無回答	18	6.9%
合計		259	100.0%

【3歳児】

選択項目		回答数	構成比
1	1～5人	1	0.4%
2	6～10人	12	4.6%
3	11～15人	17	6.6%
4	16～20人	49	18.9%
5	21人以上	152	58.7%
6	受入れしていない	21	8.1%
	無回答	7	2.7%
合計		259	100.0%

【4歳児】

選択項目		回答数	構成比
1	1～5人	1	0.4%
2	6～10人	9	3.5%
3	11～15人	15	5.8%
4	16～20人	40	15.4%
5	21人以上	166	64.1%
6	受入れしていない	21	8.1%
	無回答	7	2.7%
合計		259	100.0%

【5歳児】

選択項目		回答数	構成比
1	1～5人	2	0.8%
2	6～10人	8	3.1%
3	11～15人	10	3.9%
4	16～20人	42	16.2%
5	21人以上	169	65.3%
6	受入れしていない	21	8.1%
	無回答	7	2.7%
合計		259	100.0%

問4 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材(幼稚園教諭、保育士、保育教諭など)は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	130	50.2%
2	ニーズはある程度高い	115	44.4%
3	ニーズはあまりない	2	0.8%
4	ニーズは全くない	0	0.0%
5	わからない	10	3.9%
	無回答	2	0.8%
合計		259	100.0%

問5 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材(幼稚園教諭、保育士、保育教諭など)を、貴園・貴所において採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	校正値
1	採用したい	188	72.6%
2	採用しない	0	0.0%
3	わからない	69	26.6%
	無回答	2	0.8%
合計		259	100.0%

問6は、問5で「採用したい」と回答した 188 件が回答対象である。

選択項目		回答数	人数合計
1	1名	58	58人
2	2名	81	162人
3	3名	28	84人
4	4名	3	12人
5	5名	2	10人
6	6名以上	1	6人
	無回答	15	0人
合計		188	332人

問7 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

※原文ママ

業種【問1】	記述内容
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・学生にITスキルを身に付けさせて欲しい ・園が記入する実習コメント等は、手書きではなく、PC入力も可能としてほしい。
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・健康第一 ・笑顔で明るい挨拶ができる学生さんを毎年採用
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人数が減少していく中、多くの課題が考えられます。 ・幼児教育の質を問われつつ、実は質が低下してきているのではという現実 ・幼稚園、保育園、その他子どもの施設が多様化している。研修等でつながり合うよりもバラバラに孤立していく傾向が感じられる ・長時間保育(預かりも含め)の現実が、親の育ちや健全な子どもの育ちを難しくしている現実となっている。
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭という資格あったですか？

幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・明朗で体力がある方 ・チームワークが取れる方 の育成
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀正しく ・期日やルールをまもる ・素直で吸収力がある ・あいさつができる よろしく願います。
幼稚園	「幼稚園教育要綱」に示されている領域を、子どもたちの遊びや環境のなかにどのように反映させていくのか、「ねらい」や「内容」に即した探求をお願いしたい。
幼稚園	<p>①教授が本当に専門職としているか、どうか、例えば校長が退職した人を選ぶのであれば少し疑問に思います。教授の出された論文等を拝見したいです</p> <p>②人口密度が落ちている時に、人間科学部はどうでしょうか？</p> <p>③人間科学部で、どのような専門性が身に付くのでしょうか？論文でしょうか？ゼミでの単位でしょうか？心理学？発達心理？児童心理？また、教育実習はどのようにされるのでしょうか？</p>
幼稚園	コミュニケーション能力の高さをもとめます。
幼稚園	<p>ポストコロナの時代、ひょっとしたら待機児童は地方都市では急激な減少になると予想されます。</p> <p>保育のニーズは量から質への転換がおきるのではないだろうか。</p> <p>質の高さと提案力のある人材が求められる。</p> <p>質とは価値であり、施設により、柔軟に発揮できる力。</p>
幼稚園	リーフレットに示されている児童・幼児教育の特色を見ると、これからの時代の教職員として必要な、幅広いスキル等の育成を目指されており、素晴らしい人材を送り出していただけることを期待しています。是非採用したいと思います。
幼稚園	意欲のある学生さんに期待します。
幼稚園	<p>各園の園長の悩みとして、採用されても年度途中で退職するケースが多くあり、続かないことです。</p> <p>精神面の強さも必要ですが、教諭としての仕事内容(保育の充実、保護者対応、園務分掌など)を学ぶ機会があるといいと思います。</p>
幼稚園	<p>学生の間にも実習をたくさん経験し、幼稚園の現場をみてもらえると、多くを学ぶことができるかと思えます。(子どもの特性・職員の動きなど)</p> <p>たくさんの方の学生さんが、幼稚園教諭を目指していただけることを願っています。</p>
幼稚園	基本的な事(挨拶等)が身につけていて、保育を楽しむことができる人がいいです。あと、少しピアノにも力を入れて頂けると助かります。よろしく願い致します。
幼稚園	<p>貴校が北九州のために、筑後地方出身や筑後に希望される学生さんが</p> <p>いらっしゃるか気になりますので、採用につながるように認知して頂ければ幸いです、よろしく願います</p>
幼稚園	<p>貴大学を含めて、築豊地区の幼稚園に就職希望者は極めて少ないです。</p> <p>これまで、何度も求人しましたが、応募はありません、周辺大学等に。</p>

幼稚園	急激な社会変化に伴い、保育現場も多様化し次世代に向けての検討も行われております、それでも変わらないこともあります、子供たちにとって幼児期に出会う先生は、最初の先生であり、とても大切な役目である事を、意識をもって現場に来て頂きたいと思います。未来の子ども達の為に愛情と専門的知識を持って、子ども達に関わってくれる卒業生に出会う事を期待致します。
幼稚園	近年、実習を受け入れている中で感じている事は挨拶をしない、提出物の未提出が増えていることです。実践的な育成も考慮して頂けたらと思います、それぞれ学校のカラーが実習等で見えてきます。何事も真摯に取り組むような人材の育成に期待しています。
幼稚園	九州女子大学からの教育実習生も多く受け入れております。最近も、九州女子短期大学の方より1名採用しております。大学と短大とではどうしても短大学生さんに、求人を出してしまいます。(給与の面でも)大卒の先生を採用したことがなく、短大と九学との実習、実践の差は短大の方が多く身に付いている気がします。
幼稚園	今の現場は、子ども達への保育技術の他に、保護者へのケアが不可欠になっています、そちらも視野に入れた人に対して(子ども、保護者、同僚、上司)心配りし、自分のメンタルも守りながら前向きにがんばれる力を育成して頂けるとよいと思います。
幼稚園	最近幼稚園教諭志望の学生が減ってきているように感じます。幼児教育は、子どもの命をあずかる仕事で責任も重く、仕事量も多い反面、給与や、休日の部分では決して恵まれているとはいえないので、そのことを覚悟したうえで目指され学ぼうとされる方に、期待します。
幼稚園	採用の急な場合がある時もあり学校にお願いしたりしています。近年幼児課程もすくなくなってきていますので大変ですがよろしく願います
幼稚園	採用を3名予定しているが1名しか決まっていません。多くの学生の指導をしていただき 十分採用ができるかと難しい
幼稚園	四年制大学の卒業生として社会性をもった学生を期待しています。
幼稚園	支援を要する児童が増えている為、そういったことに特化した人材に高い関心がある。
幼稚園	私自身も四年制大学を卒業し、幼稚園教諭となりましたので、大学卒の保育士、幼稚園教諭の大変さはわかります。しかし、こども1人1人の支援がとても重要になってきている今、短大で学んただけでは対応できないことがたくさんあります。幼児教育は現場仕事ですので、机上で4年間学ぶだけでは、即戦力にならないし短大卒の学生に比べて(実習に来ても)熱意が足りないというか、意識が甘く採用したい思う学生が少ないのも事実です。理論と実践のバランスの取れた学生を育てて頂きたいと思います。(学び続ける姿勢を持った学生を期待しています。)
幼稚園	時代とニーズに合った学科となっており、とても興味深く拝見しました。よい人材を期待しております。
幼稚園	少子化の影響もあるのでは？教育のなり方が少ないように感じます。処遇改善で、職場も改善されつつあるので是非、教諭になる声が増えて欲しいと思います。
幼稚園	常に人を探している状態ですので、保育者を志す学生が増える事は、とてもありがたいです。

幼稚園	新しい乳幼児教育の方向性・期待される幼稚園教諭像の教育
幼稚園	専門知識は大切ですが、人を育てる仕事として感性が豊かであったり、やさしさや気配りができたりする学生さん達に仕事について欲しいと思います。自園では、約 1.5 割のお子さんが、サポートが必要ですので、多様な対応能力が求められますが、日々、一喜一憂しながら子ども達の成長に関わらせてもらっています。考え方をやわらかくし、臨機応変に対応できるように沢山の経験をしてほしいと思います。
幼稚園	専門的な教養は大学に任せること、社会人として大人としての素養を高めてほしいと思います。参考までに、①あいさつ ②返事をする ③整理等④報告 ⑤連絡 ⑥相談を身に付ける。要望が多いとは思いますが4大ですので良い先生を育てて下さい、期待しています。
幼稚園	専門的な知識と技術を持った人材、想像力豊かな人材の育成を望みます。子どもの主体性を育む場です。関わる大人が、まずは主体性のある人物でありたいものです。よろしくお願ひいたします。
幼稚園	専門的知識と技術の修得は必要だが、幼児教育に対する熱意が職場では問われます。子どもを愛し、教育に対する熱意ある人材の育成を望みます。
幼稚園	多くの幼稚園教諭、保育士の人材が養成され採用に繋がっていくことを期待しています。
幼稚園	退職者が出た場合のみ、出身校を問わず、スキルと人物評価で採用しています。良き人材を育成される事を期待します。
幼稚園	短期大学の閉鎖もある中で、人間教育の重要な役割を果たす人材として九州女子大学がより一層大切な部分に力注いでくださる事が何よりも嬉しくおもいました。
幼稚園	知識と技術の学びに合わせ、多様化する社会に対応できる人間力の養成を期待しております。できるだけ多くの園、学校へ実習や見学に行き、それぞれの園、学校の良い面だけでなく改善点なども含め気づきを大切に、能動的に考えられる力を養う様な、現場、貴校の益々のご発展を祈念しています。
幼稚園	当学園では「一つ一つ出来るようになること」を通して、長所を伸ばし、自らの苦手とも向き合いながら日常生活を過ごせるようにしております。園児の成長を促す為にも、先ずは自らの成長を自己表現しようとする粘り強い心の持ち主を期待しております。
幼稚園	特にありませんが、採用人数は年度によって 0 名の場合もあれば 4~5 名のときもあります。
幼稚園	特になし。
幼稚園	認定子ども園、保育園が増えてはいるが、それに伴った保育士が大変不足している、エッセンシャルワーカーとして重要な部分を担っていく人材が多く必要であると思う。
幼稚園	保育者のニーズは高いものの、介護職関係の離職率も高い、幼児教育に関わる者は技術とキャリアが必要となるため、長く働く事を志として持つ人材を育成して欲しい。
幼稚園	毎年 2~3 名の欠員が出ますので是非応募して頂きたいです。 反面教諭志望の学生が次々減っているようで、心配です(保育士になる人)が減少)
幼稚園	毎年ではないが、募集の必要がある場合は求人票を送付させて下さい。

幼稚園	問5、6は今後なのか来年度なのかで回答が変わるため質問がわかりづらい。本園の採用試験を受け、合格した方はもちろん採用であり、今後何名採用するかは限定されるものではない。
幼稚園	問5の採用について、現時点ではわからないに印をつけていますが、実習の受入れなどさせてもらった学校には募集案内を送らせて頂いています。実習等ぜひご検討ください。
幼稚園	問6についてですが、退職者の数が採用可能な数なので、多くても1~2名となります。 最近では保育園志望の方が増えていて、理由を聞くと幼稚園教諭は”大変”と思っている学生が多いようです。それ以上のやりがいや楽しさを知ってもらいたいと常々考えておりますので、是非気軽に自主実習や見学に来て頂き、肌で感じてほしいです。
幼稚園	幼児教育 保育 特別支援教育。今の子供たちの行動を見ると気にかかる面が多々あります 洋二の心理行動を見て どのように接すれば良いかと考えさせられる事があります。長年子供達を見ていて 考えさせられる事です。すばらしい学科ですね 望んでいます
幼稚園	幼児教育における知識や技術を身に付けると共に、やりがいのある仕事だということも学ぶ場であってほしいと思います。
幼稚園	幼児教育に携わりたい人材を広く集め、地域の保育、教育の人材育成の要としての役割を期待しております。
幼稚園	幼児教育の重要性がようやくピックアップされる時代になりました。(気づき始めた) これからは幼児教育の本質が試される時代ですので学校への期待はふくらむばかりです。「ただ子どもを預かるだけではない施設」とっては、人材確保は、生命線となってくるでしょう。今後共宜しくお願い致します。
幼稚園	幼稚園の1人担任が負担だとよく耳にするので、担任の責任と大変さばかり伝えるのではなく、子どもと一緒に成長できる醍醐味も講義で伝えて頂けると非常に有難いです。
幼稚園	幼稚園への関心を広げ、実習等に参加し就職につなげて欲しいです。求人を募集しても、なかなか応募がきません。
幼稚園	幼稚園教諭の資質向上が求められています。専門性のある教諭として(幼児理論等(理論面:社会人として(組織人としてピアノ等))挨拶、責任感等、その両輪での人材育成を計って頂きたいと思います。
幼稚園	幼稚園教諭はとても素敵な仕事なので、学生さんにもぜひ体験などをして感じてほしいです。
幼稚園	幼稚園教諭を目指す学生が増えることを願っています。 只今実習生の受け入れ人数は多くなっているものの、実際に働く人数は減ってきており、残念です。令和5年度からの新学科設置により志す学生が教職に就いてくれることを期待しております。
保育園・保育所	・基本的な挨拶がきちんとできること ・置かれている状況などが読み取れること
保育園・保育所	・実習生の受け入れ人数は多いが、地元に戻って就職する学生が多い為、就職に結びつかない。

保育園・保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてあたり前のことがあたり前にできる人材育成を希望します。 あいさつ、提出期限を守る、時間を守る、使ったものは片づける、報告・連絡・相談をする、任された業務は責任をもってやろうとする。 ・社会人として、一定レベルの文章が書けるようにして欲しい。 実習日誌でも漢字のまちがいが多い。主語・述語が繋がらない等、よく見られます。採用後、保育記録や保護者へのお便り等、作成できるのか心配になることがあります。
保育園・保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・職場間のコミュニケーションがとれる ・向上心や意欲がある
保育園・保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・即戦力になる保育士となる学生を育成して欲しいです。 ・指示待ちではなく自分で考えて動けるように育成して頂けたら嬉しいです ・会話の出来る人、最近の学生はこちらからの声掛けに返せる人が少なく感じます(コミュニケーション能力の高い人希望) すてきな保育士になる人達と一緒に働ける費を楽しみにしています。
保育園・保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士不足が当園でも問題になっている為、保育者、教育者を希望する人が1人でも多く増えてもらえればと思います。 ・しかし、仕事負担が大きい面もあり、若い学生さんたちにニーズが高いただろうかと考えた時に分からない面はあります。
保育園・保育所	<p>コロナ禍で大変とは思いますが事前に色々な体験を現場でさせてあげたいですね。楽しい体験をたくさん</p>
保育園・保育所	<p>コロナ禍にあるこのご時世に幼児教育を目指す学生がいることはありがたいことだと思っています。</p> <p>幼児教育を志す学生さんに求めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協調性・忍耐力・柔軟性・処理力・相手に寄り添う気持ち・福祉の心・マナー
保育園・保育所	<p>せっかく入学して頑張っても、実習で挫折して保育現場での就職をあきらめてしまう人がいます。人間関係やコミュニケーションは難しいと思いますが授業で培えることがあるといいのではないかと思います。</p>
保育園・保育所	<p>学が意欲や専門性の高い人材を育成して頂き、是非保育の現場で活躍して頂きたいです。</p> <p>問6については同時期の採用なら二名くらいかと考えています。今後多くの学生さんに当法人で活躍してほしいです、</p>
保育園・保育所	<p>学生が少なくなり、また、それ以上に子ども達が少なくなり人口減少の中どのような事が今後求められるかです。人の温かみ、感性を磨くことは必要とされています。しっかり基礎の部分教育学はもちろんですし、コミュニケーション力や心理学、発想を豊かにするかなど重要で身に付けて欲しいと思います。</p>
保育園・保育所	<p>基本的な事を教えてもらったら、臨機黄変な対応ができる、又、自分の考えを持っている、必要な時に自分の考えを伝えることができる人材育成をお願いしたいです。</p>
保育園・保育所	<p>貴大学においての人材育成に大いに期待しております。</p>

保育園・保育所	九州女子大学の中で新たに児童、幼児教育学科や心理学科等ができるという点で今後の保育業界で活やくされる事を期待しております。子どもの心理状況等を学生時代に学ぶことで、今後の保育の現場できっといい方向につながる事だと期待しております。
保育園・保育所	現在保育士不足が切実な課題です免許を取得し、保育園への就職にぜひつなげてほしいものです。社会を交えるエッセンシャルワーカーとして今求められている力は大きいです。
保育園・保育所	現代の多様化する家庭環境の中での子どもたちの育ちを、課題を含めて十分に考察、研究を深め、時代のニーズに対応できる視野の広い人材育成を願います。
保育園・保育所	今からの社会を生きていく子ども達にマッチする学問と人間力をそなえた学部であってほしい また保育士として働いて欲しい
保育園・保育所	今の時代にあった内容でこれからの子どもたちを育てる上で、必要とされることをたくさん学んで子ども1人1人に伝え、学生さんを育てて欲しい。
保育園・保育所	今後、少子化が深刻化する中で、保育所と同じくそこに働く保育士等も生き残るための競争が激しくなります。 AIの参入や様々な技術と効率化が進んでも、人が主体である教育、保育の現場では、質の高いものが求められることは明らかであり、より専門性の高い知識と技術を身につけ、人間性の高い人材を育てる教育がより求められる物と考えます。 貴学の様に、それぞれの分野における、より細やかな教育への期待は大きいのではないのでしょうか。
保育園・保育所	今後ともよろしく願いいたします。
保育園・保育所	事業団体側も保育士不足なので、一人でも多くの保育士となる人材を育てていただけたらと思います。
保育園・保育所	児童、幼児教育科の新設に向けての学科の特色に記載されている学びを、職場でも活かすことができるよう、園内研修等で学校での学びと現場での学びを情報交換し合い、保育の質の向上につなげることが、出来たらと思っています。
保育園・保育所	次世代育成の根底にある乳幼児の保育は大変重要です。その為専門的な知識と技術をもった人材の育成が必要です。保育士になる学生が減少している中、園側も実習を通して保育士の魅力を伝えていきたいと思ひます実習の期待を込めて、、、、。よろしく願いします。
保育園・保育所	質の高い保育士の育成を期待したい
保育園・保育所	実習園にとってうれしいことは、実習を終えて実習生の「保育士になりたい」という気持ちが強くなることです。 実習の狙いは「子ども理解、保護者理解、保育所理解、保育理解」などですが一番大切なのは、「保育士の卵たちの保育士への期待がより高まること」だと思います。学校での理論と実習園での実践と共に、経験を重ね、保育士として社会人として女性として魅力的な人になって頂きたいと思っています。よろしく願いします。
保育園・保育所	社会性のある人材を育てて欲しい。(コミュニケーションが上手に取れる)

保育園・保育所	小規模保育園です。新卒の職員の応募がないので、ぜひとも採用したいと考えています。実習先として認められると嬉しいです。
保育園・保育所	小規模保育所や事業所等ができてから、保育所の人材が不足しているように思います。 もちろん小規模保育所も事業所もニーズがあるからこそだと思いますが、保育所で働く魅力(0～6才までのこどもの育ちをみることができる、行事を通して子どもの育ちを実感でき充実感が味わえる等)を十分伝えて保育所への就職をすすめていただけたらうれしいです。
保育園・保育所	新しい学部になり、私ども大変期待しております。専門性の高い人材育成を
保育園・保育所	新学科の設置に大いに期待します。 ぜひ在学中から実習やボランティアなどを通して、現場に足を運んでいただき、保育の魅力ややりがいなどを感じていただければと思います。
保育園・保育所	人に言われなくても先輩のしている事をみて進んで考え見て覚えようとする人材が欲しい。
保育園・保育所	専門性の高い保育士の確保は、毎年の重要課題なので、大いに期待しております。
保育園・保育所	大学を卒業した学生さんは、小学校教諭になる印象があります。幼児教育を深く学んだ学生さんが、保育園や幼稚園に就職していただけたら、うれしいです。
保育園・保育所	大都市部では、大学卒の保育士などの採用を進めているところが多く九州地区において大学での学部設置が少ない中、今後は施設においては少子化をふまえ、より専門性の高い資質をもった人材を必要し需要は高まる者と思われるところから大いに期待するものです。
保育園・保育所	地域で保育士として働ける人材の育成、保育士の学び直し、保育士向けの大学院教育 保育士、管理職向けのリカレント教育
保育園・保育所	乳幼児に関心を持って保育士を目指しておられる方だと思います。 生涯の仕事として期待して就職していただけたら全く意識が違ってきます。現場に出て、子どもたちと接することで保育の深さを知り、やりがいのある魅力的な仕事として感じられると思います。子どもたちと接するのは素晴らしいですよ。様々な可能性を持っています。それを発見して引き出してあげる、楽しいですよ。夢と希望にあふれた職業です。ですから、是非是非保育士を目指して下さい。
保育園・保育所	乳幼児の保育、教育の質を高めて素晴らしい人材を育成する重要な仕事です。学生の皆さんが希望を持って仕事に従事できますようにと願います。
保育園・保育所	保育、教育、人材が不足している中、一人でも多くの担い手が育ってほしいと思います。
保育園・保育所	保育士、幼稚園教諭等は対人関係職ですので、これから対人スキル、社会性の高い人材が育ち、現場に入ってきてくれるのを望んでいます。 又、実習、就職時には、学生の持病、疾患、特性などは情報開示を強く望みます。学生はもとより、保育園園児の健康、安全、命を守る為必ずお願いします。
保育園・保育所	保育士の資質向上が求められる現在、学生時代にある程度専門的知識を身に付けておいてほしい。そのためには、短大の2年よりも大学の4年間の方が深まるのではないかと考えられます。

保育園・保育所	保育士の新規採用予定がある時は採用を検討したいと思う 子どもが大好きな先生・子どもひとりひとり(個性)を大切に出来る先生を育てて欲しいです
保育園・保育所	保育士不足が深刻です。資格を取得しても就職に至らない故に、若い世代が育たず空洞化がおこりかねません、マスコミ等が伝える様な大変な面だけでなく、人の人格形成に多大な影響を与える尊い仕事であることを伝えてもらいたく存じます。
保育園・保育所	保育士不足で困っています。是非保育を望まれる人の育成をはかり保育園に就職して頂きたいと思えます。社会人としての基本的マナー言葉使い、服装、身だしなみ等の自覚を身に付けてほしいと思えます。
保育園・保育所	保育士不足の中で養成学校が増える事は嬉しく思います。養成学校へ行っても専門職に就かない学生さんの多いので保育園、幼稚園で働く魅力をどんどん発信して、やりがいのある仕事として知ってもらいたいです。世の中の重労働、低賃金のイメージを払拭するイメージを持てるよう私たち現場も頑張りたいです。
保育園・保育所	本園は開園4年目の小規模保育園です。他の園でいろいろ経験してきた保育士が集まり、一から作り上げてようやく今の形になってきたところです。今回、このようなりっぱな児童・幼児教育学科が設置されること。地元の園としてたいへん嬉しく思います。 本園もその中の学生の方々に選んでもらえるような園をめざして頑張っていきたいと思えます。
認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> ・いくらAIが発達しようが、人間しかできない、職業が私たちのこの幼児教育です。 ・少子化と言われるけれども、子ども1人あたりの先生の数は多い方が良いと思えます。 ・未来はすべて、小さな子どもたちに左右されます、今こそ質の良い教育、保育をするべきです、それに伴いそれを指導していく先生方(保育士、教諭)は重要な人材です。
認定こども園	以前はなりたい職業No1だった保育士の仕事が社会の変化により子どもたちの憧れの職業になっ ていなくなった今、保育士か幼稚園の先生になりたいという夢をもって、入学して来る学生さんは貴重な存在ですね。 実際、現場に出た時の挫折など、実習園ももちろんですが、御校でも励まして頂き、一人でも多くの学生さんが幼児の違う施設へ就職しようとする希望と期待が持てるよう、ぜひ、ご尽力下さい。
認定こども園	一人一人の個性を生かせる様な(自分にしか出来ない事!)技術を身に付けられる様な、「〇〇ねばならぬ!」という考えを持たず、様々な発想が出来なければ現実で学べば良いと思えます、 一人の成人としての知識、作法等が同時進行で!※本来なら家庭で育つべきものが育っていない事が多い様に感じるので学校での学びは多種多様で大変かと思えますが、期待しています。
認定こども園	何事にも根気よく努力する人材の育成をお願いします。
認定こども園	今のところ短大しか採用できないのでわからないにしました(給与の面で)
認定こども園	子どもの人格を尊重した態度、文章力がある、物事を前向きに考える、ピアノが弾ける

認定こども園	尚 一層の質の高い、人間的にも奥の深い、子どもへの配慮等できる、生徒さんを多く輩出して頂きたいです。
認定こども園	筑後地区において、養成学校が廃校になっており、また、学生の人数も現象しており採用が困難になっております。毎年1名の採用を目標にしておりますが、ぜひ、今後の人材をご紹介頂けると幸いに存じます。貴校発展と未来ある子ども達の為、教育、保育の現場を目指す学生の皆様が輝く世の中でありませう、折念致しております。
認定こども園	筑後地区においては、学生減少を理由に、2023年3月に久留米信愛短期大学が閉校となります。又、幼児教育、保育、支援教育など、このコロナ禍において必要な分野である事が改めて認識されています。リモートワークでは成り立たない人間教育を、一緒に担う学生諸子の育成を期待しています。
認定こども園	明確に「児童・幼児教育」と名前がつくことで学生も意識が高まるのではと考えます。高い意識と目標を明確にして勉学にはげんでほしいです。

3. 集計結果のポイント

① 企業・団体を対象とした人材需要アンケート調査

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

※家政学部「生活デザイン学科（仮称）」、人間科学部「心理・文化学科（仮称）」については記載省略。

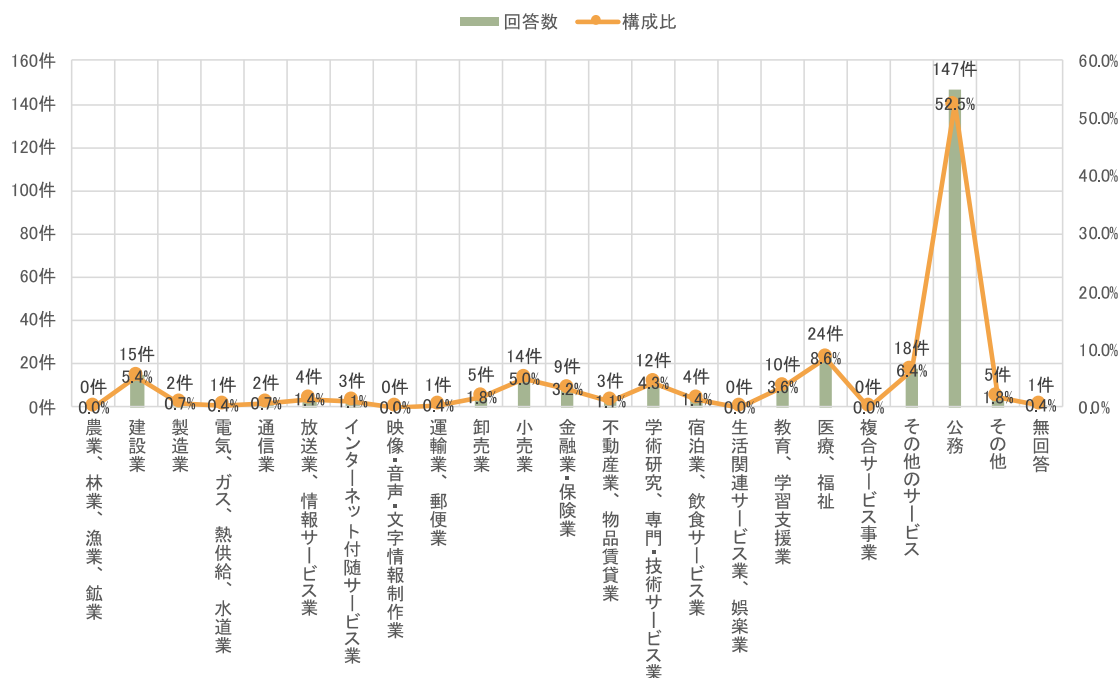
① 回答企業・機関の基本情報

アンケート回答企業・団体の約半数 147 件（全体の 52.5%）が「公務」、次いで 24 件（8.6%）が「医療福祉」、以上 2 業種や「その他」を含めて合計 18 の幅広い業種から回答が得られた。〈グラフ 1〉

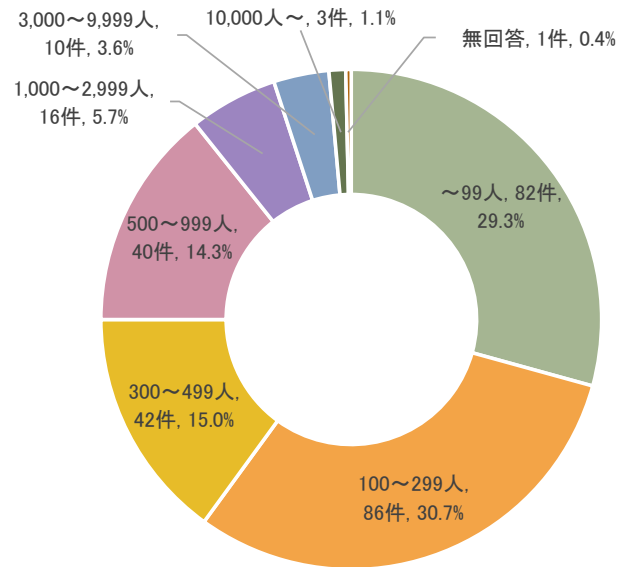
従業員・職員数で一番多かった回答は「100～299 人」で、86 件（30.7%）であった。次いで、「～99 人」が 82 件（29.3%）であった。〈グラフ 2〉

また、アンケート回答企業・機関の 51.4%にあたる 144 件が、九州女子大学がある「福岡県」に所在しており、福岡県を除く九州地方が計 103 件（36.8%）、「沖縄県」が 20 件（7.1%）、「その他」が 13 件（4.6%）であった。〈グラフ 3〉

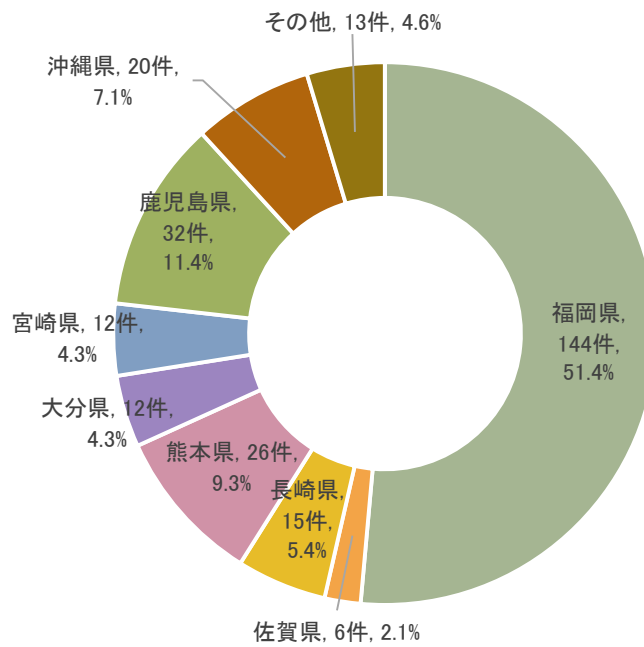
グラフ1



グラフ2



グラフ3

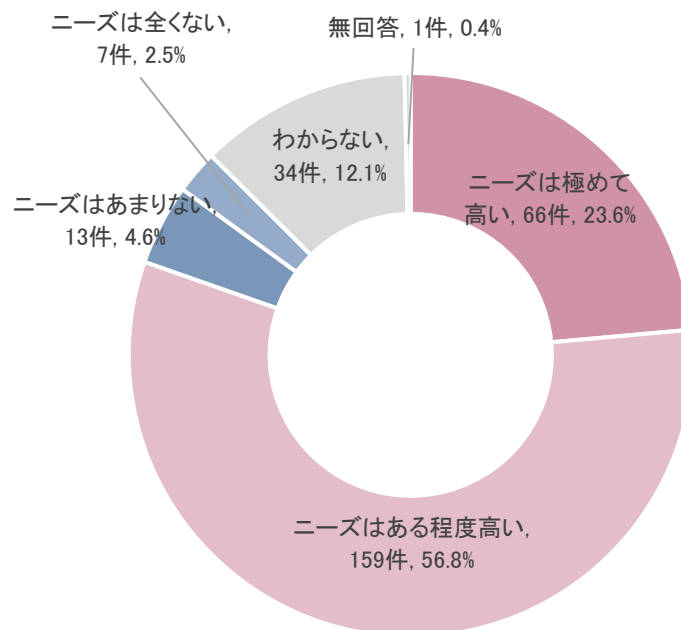


② 人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」について

人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材の社会的なニーズを質問したところ、「ニーズは極めて高い」が66件(23.6%)、「ニーズはある程度高い」が159件(56.8%)であった。回答企業・団体の8割以上にあたる225件が、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材の社会的ニーズの高さを認める結果となった。〈グラフ4〉

人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」養成する人材の採用意向について質問したところ、「採用したい」が48件(17.1%)であった。さらに、その48件に対し採用可能と思われる人数について質問したところ、合計65人であった。〈グラフ5・表1〉

グラフ4



グラフ5

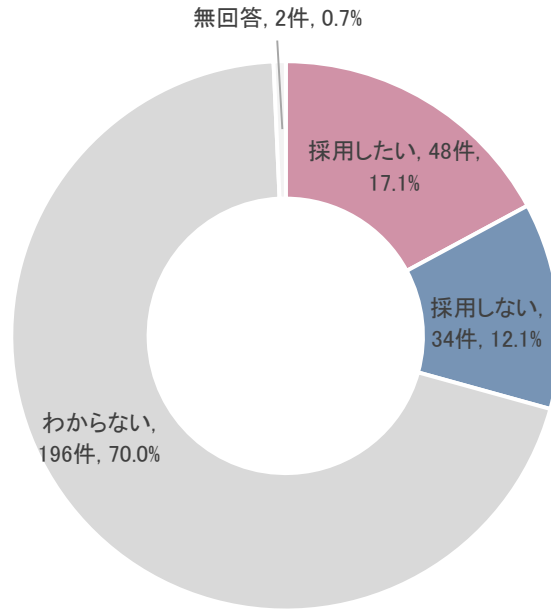


表1

選択項目	回答件数	採用可能人数
1名	35件	35人
2名	5件	10人
3名	3件	9人
4名	0件	0人
5名	1件	5人
6名以上	1件	6人
無回答	3件	0人
合計	48件	65人

※採用可能人数は、回答件数に人数を乗じたもの

② 幼稚園・保育所等を対象とした人材需要アンケート調査

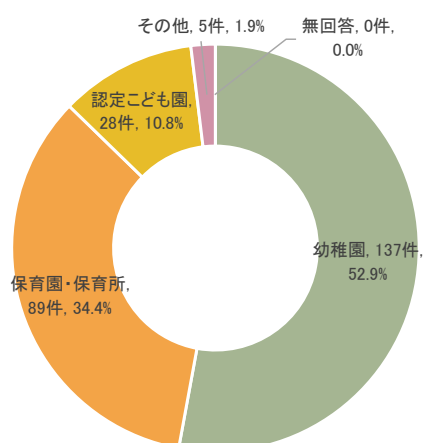
※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

① 回答機関・施設の基本情報

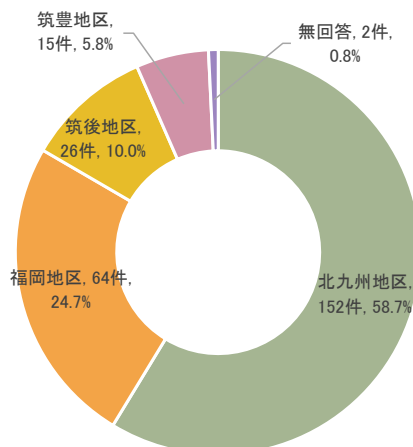
アンケート回答機関・施設の 52.9%にあたる 137 件が「幼稚園」で一番多い回答であった。次いで、「保育園・保育所」が 89 件 (34.4%)、「認定こども園」が 28 件 (10.8%)、「その他」が 5 件 (1.9%) の順であった。〈グラフ 6〉

また、アンケート回答機関・施設の 58.7%にあたる 152 件が「北九州地区」で一番多い回答であり、次いで「福岡地区」が 64 件 (24.7%)、「筑後地区」が 26 件 (10.0%)、「筑豊地区」が 15 件 (5.8%) の順であった。〈グラフ 7〉

グラフ6



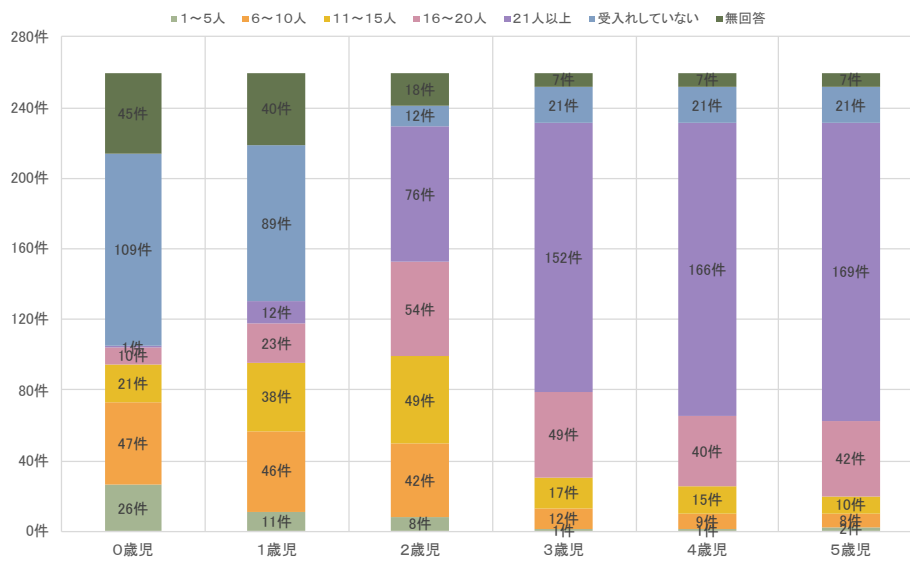
グラフ7



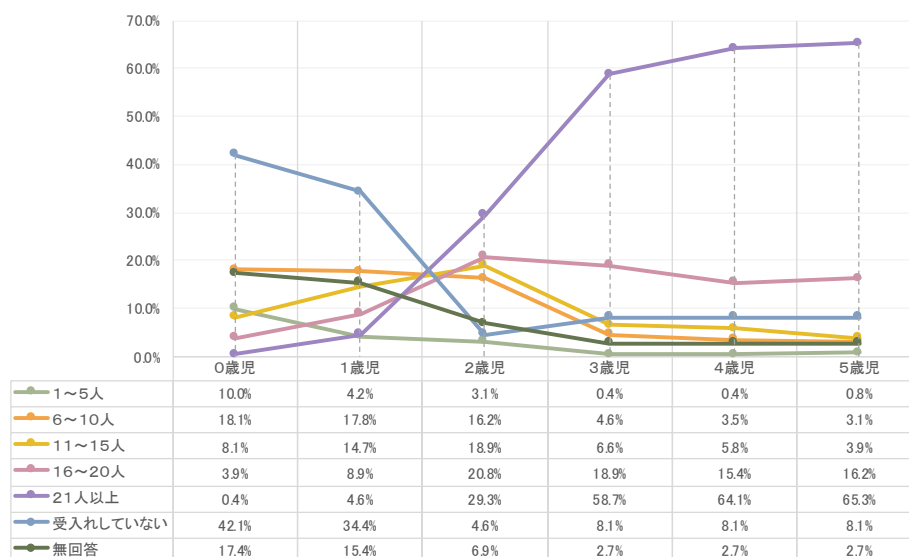
② 回答機関・施設の定員数

アンケート回答機関・施設における年齢別の定員数を質問した結果、表4と表5の通りである。0歳児と1歳児で最も多かったのは「受け入れしていない」、2歳児から5歳児では「21人以上」であった。〈グラフ8・9〉

グラフ8



グラフ9

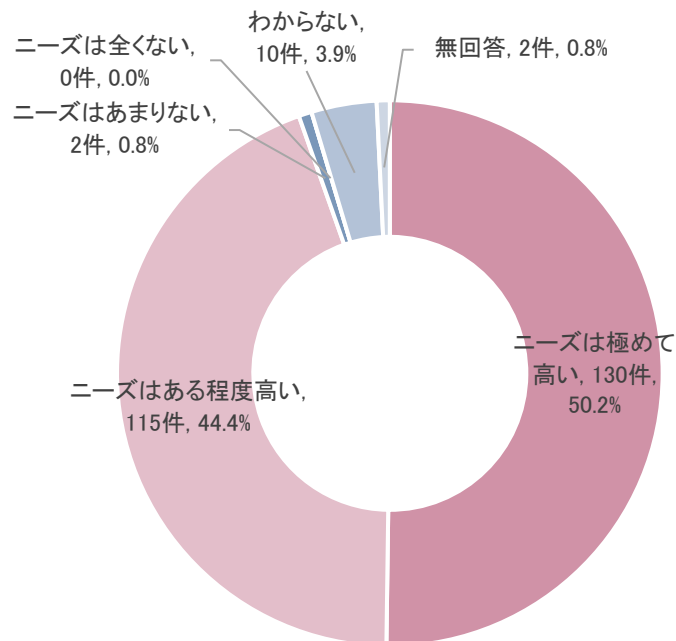


③ 人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」の社会的ニーズについて

人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材の社会的なニーズを質問したところ、「ニーズは極めて高い」が130件(50.2%)、「ニーズはある程度高い」が115件(44.4%)であった。

回答機関・施設の94.6%にあたる245件が、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材の社会的ニーズの高さを認める結果となった。〈グラフ11〉

グラフ11



④ 人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材の採用意向について

人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材の採用意向について質問したところ、回答機関・施設の72.6%にあたる188件が「採用したい」と回答した。さらに、その188件に対し、採用可能と思われる人数について質問したところ、合計332人であった。〈グラフ12・表6〉

グラフ12

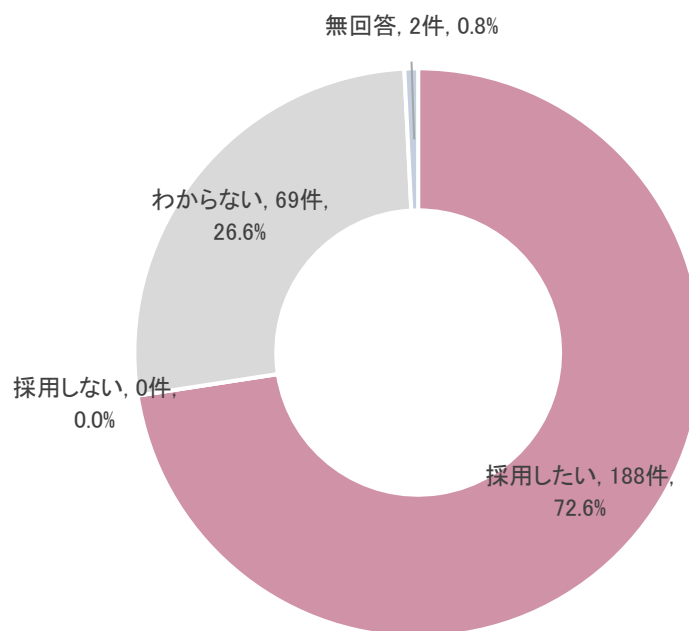


表6

選択項目	回答件数	採用可能人数
1名	58件	58人
2名	81件	162人
3名	28件	84人
4名	3件	12人
5名	2件	10人
6名以上	1件	6人
無回答	15件	0人
合計	188件	332人

※採用可能人数は、回答件数に人数を乗じたもの

人材需要の見通し調査結果 まとめ

九州女子大学が令和5(2023)年度に設置予定の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」の人材需要の見通しを検証するため、当該学科の卒業生の採用が見込まれる①企業・団体 ②幼稚園・保育所等を対象にアンケート調査を依頼し、合計539箇所(①280箇所 ②259箇所)から回答を得た。

当該学科の概要を示した上で採用意向、さらに採用意向を示した場合は採用可能と思われる人数について質問したところ、「採用したい」と回答したのは、2つのアンケート調査合計で236箇所となり、その上で示された採用可能人数の合計は397人であった。人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」は、入学定員を100名と予定しており、その採用ニーズは入学定員を大幅に上回った。

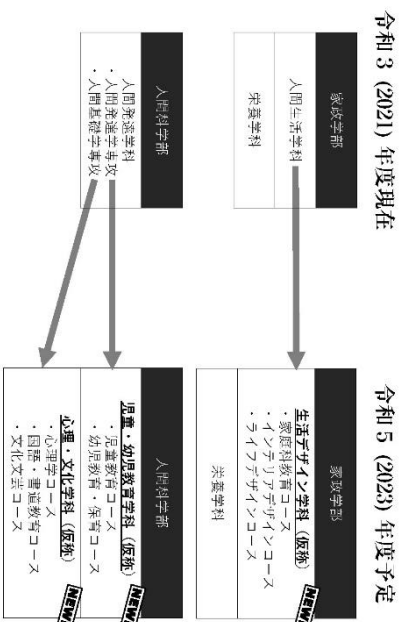
以上の結果から、九州女子大学人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材については高い人材需要が見込まれることが明らかとなった。

以上

添 付 資 料

- 資料 1 九州女子大学 令和 5 年度新設 3 学科概要
- 資料 2 設置構想についての高校生アンケート調査用紙①
(企業・団体が対象)
- 資料 3 設置構想についての高校生アンケート調査用紙②
(幼稚園・保育所等)

令和5(2023)年4月、 九州女子大学 が生まれ変わります。



この「概要」をご覧の上、
別紙・人材需要アンケート調査にご回答ください。

上記は設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容などは変更となる場合があります。

資料2 設置構想についての高校生アンケート調査用紙①(企業・団体が対象)



九州女子大学

家政学部「生活デザイン学科(仮称・設置構想中)」
人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称・設置構想中)」
人間科学部「心理・文化学科(仮称・設置構想中)」

設置構想についての人材需要アンケート調査
(対象：人事採用担当者様)

九州女子大学は令和5(2023)年度に学部学科の改組を行い、家政学部に「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部に「児童・幼児教育学科(仮称)」「心理・文化学科(仮称)」の設置を構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、将来的に卒業生の採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実に努めてまいります。回答いただいた皆様から得られた情報は九州女子大学の新学科設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、謹んでお願い申し上げます。
※このアンケート調査は九州女子大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

【記入例】  

- ・上の記入例を参考に、黒鉛筆またはシャープペンでご回答ください。
- ・誤って記入した回答は消しゴムでしっかりと消してください。

問1 貴社・貴機関の主要種として、最もあてはまるものをお答えください。(最もあてはまるもの1つにマーク)

- | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="radio"/> 農業、林業、漁業、鉱業 | <input type="radio"/> 建設業 | <input type="radio"/> 製造業 |
| <input type="radio"/> 電気、ガス、熱供給、水道業 | <input type="radio"/> 通信業 | <input type="radio"/> 放送業、情報サービス業 |
| <input type="radio"/> インターネット付随サービス業 | <input type="radio"/> 映像・音声・文字情報制作業 | <input type="radio"/> 運輸業、郵便業 |
| <input type="radio"/> 卸売業 | <input type="radio"/> 小売業 | <input type="radio"/> 金融業・保険業 |
| <input type="radio"/> 不動産業、物品賃貸業 | <input type="radio"/> 学術研究、専門・技術サービス業 | <input type="radio"/> 宿泊業、飲食サービス業 |
| <input type="radio"/> 生活関連サービス業、娯楽業 | <input type="radio"/> 教育、学習支援業 | <input type="radio"/> 医療、福祉 |
| <input type="radio"/> 複合サービス事業 | <input type="radio"/> その他のサービス | <input type="radio"/> 公務 |
| <input type="radio"/> その他 | | |

問2 貴社・貴機関の従業員・職員数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- | | | | | |
|------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> ~99人 | <input type="radio"/> 100~299人 | <input type="radio"/> 300~499人 | <input type="radio"/> 500~999人 | <input type="radio"/> 1,000~2,999人 |
| <input type="radio"/> 3,000~9,999人 | <input type="radio"/> 10,000人~ | | | |

問3 貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- | | | |
|----------------------------|---------------------------|--|
| <input type="radio"/> 福岡県 | <input type="radio"/> 佐賀県 | <input type="radio"/> 長崎県 |
| <input type="radio"/> 熊本県 | <input type="radio"/> 大分県 | <input type="radio"/> 宮崎県 |
| <input type="radio"/> 鹿児島県 | <input type="radio"/> 沖縄県 | <input type="radio"/> その他 <input type="text"/> |



1

本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。



問4以降は別紙「九州女子大学 令和5年度設置予定の新学科概要」をご覧ください、お答えください。

<家政学部「生活デザイン学科(仮称)」について>

問4 九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズは全くない
 わからない

問5 九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問6 <問5で「採用したい」とされた場合、お答えください> 九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名 5名
 6名以上(ご支障なければ人数をご記入ください)

<人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」について>

問7 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズは全くない
 わからない

問8 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問9 <問8で「採用したい」とされた場合、お答えください> 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名 5名
 6名以上(ご支障なければ人数をご記入ください)

<人間科学部「心理・文化学科(仮称)」について>





問10 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズは全くない
 わからない

問11 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問12 <問11で「採用したい」とされた場合、お答えください> 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名 5名
 6名以上(ご支障なければ人数をご記入ください)

問13 九州女子大学が設置構想中の新学部・学科について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。特定学部・学科についてコメントいただく場合、お手数ですが最初に「〇〇学部について」「〇〇学科について」とご記入いただければ幸いです。

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。



資料2 設置構想についての高校生アンケート調査用紙②(幼稚園・保育所等が対象)



九州女子大学

人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称・設置構想中)」

設置構想についての人材需要アンケート調査

(対象：人事採用担当者様)

九州女子大学は令和5(2023)年度に学部学科の改組を行い、人間科学部に「児童・幼児教育学科(仮称)」の設置を構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、将来的に卒業生を幼稚園教諭・保育士・保育教諭として採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたく考えています。回答いただいた皆様から得られた情報は九州女子大学の新学科設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は九州女子大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

【記入例】



- ・上の記入例を参考に、黒鉛筆またはシャープペンでご回答ください。
- ・誤って記入した回答は消しゴムでしっかりと消してください。

問1 貴園・貴所の施設種類としてあてはまるものをお答えください。(最もあてはまるもの1つにマーク)

幼稚園 保育園・保育所 認定こども園 その他

問2 貴園・貴所の福岡県内における所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

北九州地区 福岡地区 筑後地区 筑豊地区

問3 貴園・貴所における年齢別の定員数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

【0歳児】
 1～5人 6～10人 11～15人 16～20人 21人以上 受入れしていない

【1歳児】
 1～5人 6～10人 11～15人 16～20人 21人以上 受入れしていない

【2歳児】
 1～5人 6～10人 11～15人 16～20人 21人以上 受入れしていない

【3歳児】
 1～5人 6～10人 11～15人 16～20人 21人以上 受入れしていない

【4歳児】
 1～5人 6～10人 11～15人 16～20人 21人以上 受入れしていない

【5歳児】
 1～5人 5～10人 11～15人 16～20人 21人以上 受入れしていない



1

本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。



問4以降は「九州女子大学 令和5年度設置予定の新学科概要」にて「児童・幼児教育学科(仮称)」をご覧ください、お答えください。

問4 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材（幼稚園教諭、保育士、保育教諭など）は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズは全くない
 わからない

問5 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材（幼稚園教諭、保育士、保育教諭など）を、貴園・貴所において採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 採用したい 採用しない わからない

問6 <問5で「採用したい」とされた場合、お答えください> 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材（幼稚園教諭、保育士、保育教諭など）について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 1名 2名 3名 4名 5名
 6名以上（ご支障なければ人数をご記入ください）

問7 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

